

南陽市字限図調査報告書（1）

— 赤湯・宮内・金山 —

2021年3月

南陽市教育委員会

南陽市字限図調査報告書（1）

— 赤湯・宮内・金山 —

令和3年3月
南陽市教育委員会

凡 例

1 本報告書は、埋蔵文化財分布調査基礎調査として平成 25 年度から実施してきた南陽市内の地名と字限図調査のうち、赤湯、宮内、金山分をまとめた南陽市字限図調査報告書である。

2 調査は、南陽市教育委員会が実施した。

3 事務局体制は次のとおりである。

主 管 課 スポーツ文化課（平成 25、26 年度）

社会教育課（平成 27 年度～）

事 務 局 スポーツ文化課長 江口和浩（平成 25、26 年度）

社会教育課長 田中吉弘（平成 27 年度）

〃 佐藤賢一（平成 28～30 年度）

〃 板垣幸広（令和元～）

社会教育課長補佐 角田朋行

社会教育課嘱託・会計年度任用職員 斎藤紘輝（令和元年～）

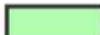
4 本報告書の執筆、編集は角田朋行が行った。

5 字限図のデジタル化は、これまで主に下記の分担により行った。

角田朋行：赤湯、金沢、長岡、樅塚、姫柳、松沢、三間通、上野、二色根、大橋、郡山、島貫、中の目、中落合、西落合、萩生田、若狭郷屋、鍋田、長滝、蒲生田、高梨、閑根、露橋、沖田、坂井、法師柳、宮崎、宮内、金山、梨郷、和田、竹原、砂塚、羽付、池黒、漆山

斎藤紘輝：漆山

6 土地利用図の地目毎の塗り分けは下記によった。

	道		墳墓地
	水路・川・湖沼		畠
	橋		水田
	宅地		草地・原野・茅場・荒地・堤塘
	寺・神社		林

目 次

第1章 調査の概要

1 調査の経緯等	1
2 字限図について	1
3 調査範囲	1
4 作図	
(1) 字限図のデジタル化と土地利用図の作成	1
(2) 土地利用図等を作成する際の修正について	3
5 字限図及び土地利用図の活用法	3

第2章 土地利用図調査（調査地域全体）

1 宮内扇状地の概要	4
2 字限図と古墳について	8
①稲荷森古墳	8
②長岡山古墳群	8
③大塚遺跡	8
④西高塚古墳	10
⑤天王遺跡	12
⑥「塚」・「壇」・「森」地名と古墳	13

第3章 土地利用図調査（地区別調査）

1 赤湯地区	14
(1) 赤湯地区的概要と特色	14
①白竜湖周辺の土地利用	14
②災害地形	14
③赤湯地区的集落・屋敷・館等	16
(2) 土地利用図（赤湯）	18
①赤湯	18
②松沢	20
③金沢	22
④柄塚	24
⑤二色根	26
⑥三間通・上野	28
⑦長岡	30
⑧俎柳	32
⑨大橋	34
2 宮内地区	36
(1) 宮内地区的概要と特色	36
①門前町の土地利用	36

②災害地形	36
③宮内地区の屋敷・館等	36
(2) 土地利用図(宮内)	38
3 金山地区	40
(1) 金山地区の概要と特色	40
①災害地形	40
②金山地区的在家・館等	40
(2) 土地利用図(金山)	42
第4章 南陽市(赤湯・宮内・金山)の小字名及び地名	46
1 赤湯 (1) 赤湯・金沢・松沢の小字名・地名	47
(2) 桀塚の小字名・地名	51
(3) 長岡の小字名・地名	52
(4) 狹柳の小字名・地名	53
(5) 三間通・上野、他の小字名・地名	54
(6) 二色根の小字名・地名	56
(7) 大橋の小字名・地名	57
(8) その他の地名等	58
2 宮内 (1) 宮内の小字名・地名	59
(2) その他の地名等	61
3 金山 (1) 金山の小字名・地名	62
(2) その他の地名等	64

表 目 次

表 1 字限図保管場所	2
表 2 市内の塚・壇・森の小字名	13
表 3 小字名・地名の出典	46

挿図目次

第 1 図 土地利用図 全体	5
第 2 図 旧河道・微高地	6
第 3 図 川・堰・堤・孤丘	7
第 4 図 稲荷森古墳と南森丘陵	9
第 5 図 稲荷森古墳周辺土取締推定図	9
第 6 図 長岡山古墳	9
第 7 図 大塚遺跡	10
第 8 図 西高麗古墳	10
第 9 図 沖郷地区の塚状地割の分布	11
第 10 図 漆山字天王の地割と道構	12
第 11 図 白竜湖周辺の水田	15
第 12 図 洪水の痕跡	15
第 13 図 明治 8 年の赤湯村	16
第 14 図 赤湯の屋敷や館跡	17
第 15 図 土地利用図 赤湯	18
第 16 図 赤湯の小字名	19
第 17 図 土地利用図 松沢	20
第 18 図 松沢の小字名	21
第 19 図 土地利用図 金沢	22
第 20 図 金沢の小字名	23
第 21 図 土地利用図 倭塚	24
第 22 図 倭塚の小字名	25
第 23 図 土地利用図 二色根	26
第 24 図 二色根の小字名	27
第 25 図 土地利用図 三間通・上野	28
第 26 図 三間通・上野の小字名	29
第 27 図 土地利用図 長岡	30
第 28 図 長岡の小字名	31
第 29 図 土地利用図 駒柳	32
第 30 図 駒柳の小字名	33
第 31 図 土地利用図 大橋	34
第 32 図 大橋の小字名	35
第 33 図 宮内の屋敷や館等	37
第 34 図 土地利用図 宮内	38
第 35 図 宮内の小字名	39
第 36 図 金山の館等	41
第 37 図 土地利用図 金山 1 (南)	42
第 38 図 金山の小字名 1 (南)	43
第 39 図 土地利用図 金山 2 (北)	44
第 40 図 金山の小字名 2 (北)	45

第1章 調査の概要

1. 調査の経緯等

市教育委員会では、市内遺跡分布調査の基礎調査の一環として平成3年度から5年度にかけて市内平野部の字限図調査を実施した。各地区の小字の字限図から字寄図を作成し、それを基本図として土地利用図、旧地形推定図、館跡や条里制等の分布参考図等を作成した。この調査の報告書は未刊行であるが、作成された資料は、その後に実施された各種の遺跡調査において有用性が認められた。近年調査データの蓄積に伴い、当時推定された微高地や旧河道等との比較・検証が可能となってきている。

今次調査では、平成25年度から新たに字限図のデジタル化に取り組み、それを元に土地利用図等を作成し、今後の遺跡分布調査等の基礎資料として活用することとした。あわせて関連する小字名・地名についても採録し、本報告書において、市内8地区のうち赤湯・宮内・金山地区分について報告する。

2. 字限図について

表題は、明治7年調製のものは地租御改正精絵図、明治8年調製のものは国、郡、村名に統いて字限図、全地字限絵図、字限全地絵図、全地絵図、精絵図、明治25年及び26年調製のものは単に地図、字切図となっている。様々な名称が用いられているが、本報告書では字限図の呼称を用いる。

南陽市内の明治時代の字限図は、市教育委員会、市税務課、各地区に保管されている。市が保管する字限図は、表1のとおりである。今次調査では、主として明治7年（1874）、8年（1875）、26年（1893）の字限図を主に使用した。

3. 調査範囲

調査範囲は、南陽市域のうち山間部を除いた範囲とし、主に宮内扇状地の地域を対象とした。今次報告地域は、赤湯、宮内、金山である。

4. 作図

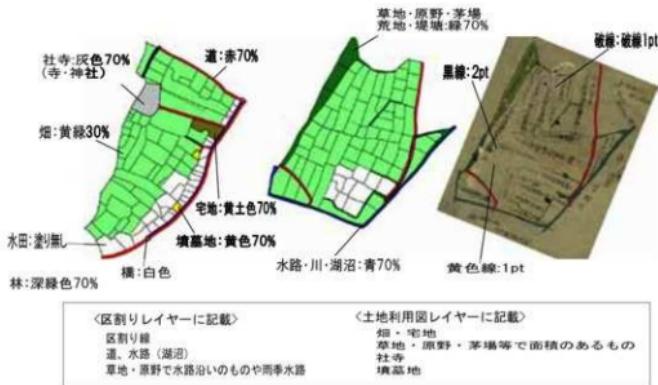
（1）字限図のデジタル化と土地利用図の作成

スキャナーで読み込んだ字限図を1葉ごとデジタルトレースし、作成した小字単位の土地利用図を張り合わせ、地区毎の土地利用図を作成した。

土地利用図を作成するために、小字の輪郭をデジタルトレースし、地目毎に次のような配色で色分けを行った。なお、地目変更がある場合及び畦線等の変更・追加があった場合は古い方を優先とした。ソフトはInkscapeを使用した。

水田は白抜き、畑は黄緑色、草地・原野・萱場・芦場・高岸・砂地は緑色、水路・湖沼・溜池・川は青色、道路は赤色、宅地、公共用地は茶色、墓地は黄色、神社・寺は灰色、山林は濃緑色、温泉は紫色に塗り分け、土地利用図を作成した。

本書に収録した土地利用図のスケールは任意である。



デジタル化方法

地区	デジタル化数	明治7年	明治8年	明治25年	明治26年	明治27年	明治31年	年不明・昭和
赤浦								
赤浦	118	○			○		○	
金沢	36	○			○			
長岡	31				○			
門塚	80				○・地		○	
道頓	32				○			
松沢	32	○	○					
三間通	59		地				□	
上野	19							
二色根	32				地			
大根	43				□			
沖郷								
郡山	39	○			□			
島賀	17	○			□			
中の目	55				□			
中落合	29	○			□			
西落合	16	○			□			
新生田	40	○			□			
若狭堀屋	24	○			□			
岡田	81	○			□			
長静	14	○			□			
瀬生田	54				□			
高梨	48	○			□			
間根	42	○			□			
霞橋	40				□			
沖田	16	○			□			
坂井	17	○			□			
法師柳	25	○			□			
宮崎	127	○			○・□			
宮内	201				○			
金山	150	○	○					
梨郷	90	○			□			
和田	45				○・□			
竹原	49	○			□			
砂原	88				□			
漆山	羽付	32			○			
	漆山	81	○	○	○			
	池黒	67	○					
吉野	萩		○・地		□			
	下枝		○		□			
	小鹿				□			
中川	川畠					□		
	小岩沢					□		
	新田					□		
	元中山					?		
	日影					?		
	兼渡戸					?		
※全ての小字が描っていないものを含む。								
○:市史編さん室、地:地区保有、□:税務課保有								

表1 字限図の保管場所

(2) 土地利用図等を作成する際の修正について

個々の字限図は、歪みや計測時の不正確さがあり、隣同士であっても境界の形状が合わないことは珍しくない。地区毎の土地利用図の作成にあたって、その修正については概ね次の方法によった。また、作成した小字単位のデータとそれを集合させた地区毎の土地利用図は別に管理し境界線の修正状況を追認できるように図った。

- ・地形図に重ね合わせて正誤が判断できる個所は地形図に沿って修正する。
- ・周辺の図との整合性から、明らかに変形している図のみを修正する。
- ・どうしても齟齬を生じる境界については、相互の境界線を近づけるように互いの境界線を変形させて擦り合わせる。

なお、中世城館等の埋没遺構等、詳細な検討を要する範囲については、ベースとなる地形図の上に小字単位の土地利用図を重ね、必要に応じて昭和 20 年代等の空撮写真とも照合した。

5. 字限図及び土地利用図の活用法

明治期の字限図を元に作成した土地利用図では、重機による大規模な開発が行われる以前の微高地や旧河道といった自然地形、溝跡のような人為的地形が判読可能である。現在は使われていないが明治時代まで使用されていた道や水路の位置も発掘調査前に把握できる。

また、小字名・地名から古墓地、寺跡、神社跡、古墳等が推測される場合や、小字名・地名が土地の成因や環境を示していることが多い。地名については、古語（やまと言葉）による経験則的な地名研究やアイヌ語地名の研究の例も知られており、字名一覧の備考欄には参考としてカナで記載した。また伝承や検討事項等も備考欄に記載した。

土地利用図では、地目（土地利用法）及び地割から得られる情報がある。

地目からは、土地の高低が推測できる。一般に水田は低地である。宅地や畠地は微高地である場合が多い。草地は営農に適さない土地であることが多く、河川沿いの低湿地帯や斜面、崖、水路の肩、塚等に見られる。水田（畠地）の中にはぼつりと畠地（草地）が残る場合は古墳、塚、古墓地の可能性がある。このような場合で当該地目内で交点を持つ地境が見られる場合は高塚の可能性がある。

地割からは、館跡、道路跡、水路跡、旧河道、条里水田跡、河川氾濫跡等を読み取ることができる。館跡ではしばしば周囲に堀跡が水田化した地割を見ることができる。

最上川等の河川沿いでは開墾に伴う長割りの地割が見られ、その長軸方向は排水方向に一致する傾向がある。湿地性の水田では、堅田に比べ一区画が小さく密になる傾向がある。

なお、土地利用図は明治初期の状況を示すものである。地名や地割りが年代的にどこまで遡りえるのか、地割りの性格や成因には、発掘調査や文献等の様々な手法による検証が必要である。

第2章 土地利用図調査（調査地域全体）

1. 宮内扇状地の概要（第1～3図）

宮内扇状地は、吉野川と織機川等の河川作用で形成された複合扇状地である。宮内の集落地の東を扇頂とし、最上川、吉野川を扇端とする。

扇状地の東側は主に吉野川により形成された地形である。吉野川は扇頂から網状流路状の様相を示しながら南流し、宮内閑口付近で更に赤湯方面と沖郷方面に振れる。沖郷方面に流れた吉野川旧河道では、島貫地区の丸堤付近で東西に振れ、中ノ目方面的自然堤防、鍋田方面への自然堤防を発達させた古い流路があると見られる。南西に流れた旧河道は、さらに沖田地区の西で小扇状地状の堆積を示し最上川に至る。赤湯方面に流れた吉野川は孤丘の間を抜けるように南東へ流れ、大谷地の西部を通って姫柳地区の東で西に流れを変える。扇頂に近い宮内市街地は、菖蒲沢から流れ出る宮沢川による扇状地を基盤とする微高地になっており、その微高地と吉野川右岸に堆積した自然堤防が宮内地区を流れる吉野川の西端になっている。

扇状地の西側は主に織機川、上無川の影響を強く受けている地域である。織機川は漆山・池黒集落の北を扇頂とする。織機川は両岸に自然堤防を発達させながら南流し、池黒の羽黒神社付近で東西に振れ本流は南西流するが、旧河道の南東流の跡は上無川に接している。また、織機川の古い流路の痕跡として梨郷砂塚方面に向け2つの自然堤防が延びている。織機川流域では、堆積土への真砂土の混入率が高く、砂塚という地区名にもそれが現れている。上無川は、吉野川旧河道と織機川に挟まれ、吉野川旧河道が丸堤付近の下流域で形成した扇状地状の地形の西辺に沿って南西流する。また、梨郷和田付近では、梨郷堰（上館堰）の河川による自然堤防も見られる。

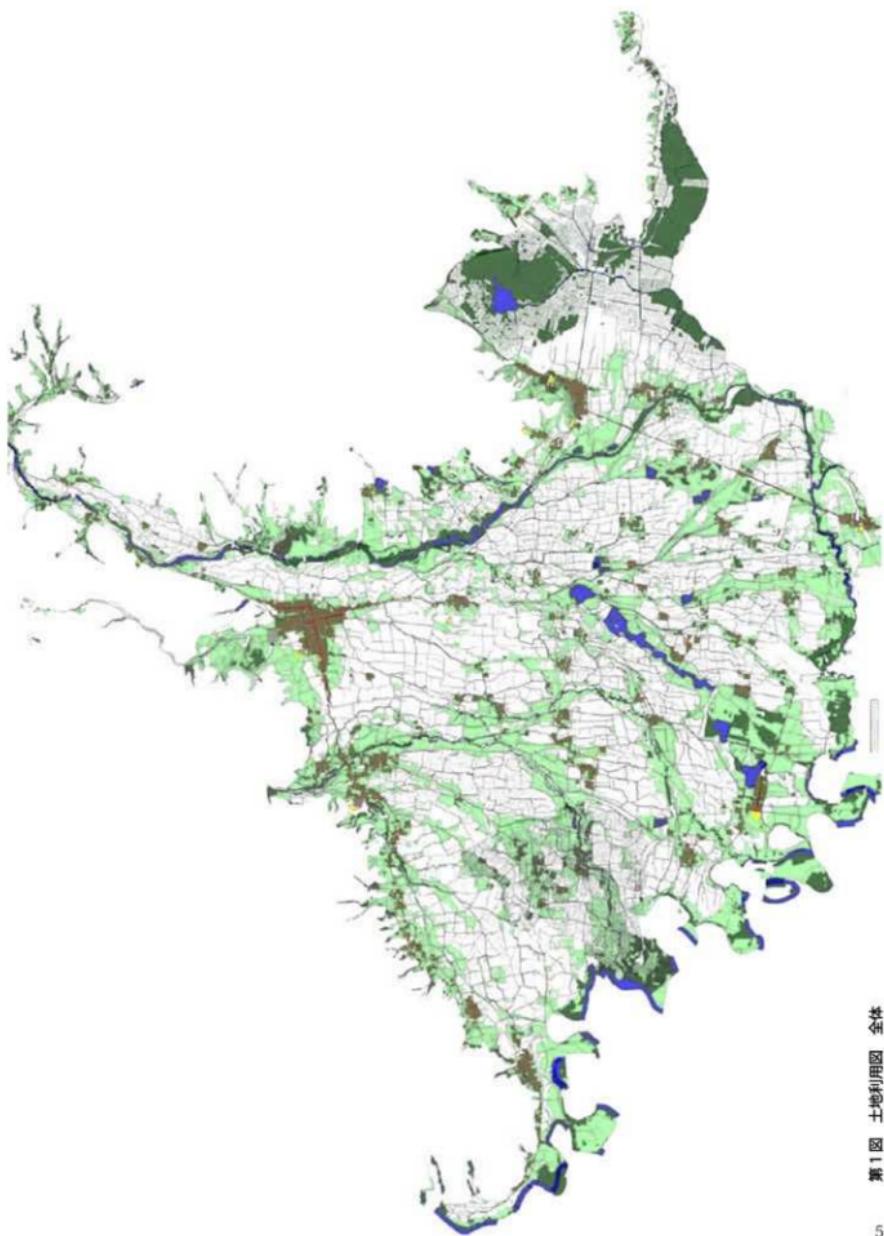
扇端の最上川の流路は蛇行が著しく、たびたび氾濫し、境界争いが生じた歴史を持つ。流路跡にはいくつかの河跡湖があったと思われる。

宮内市街地の南には、条里制の遺構と思われる方形地割が多く残る。このような方形地割は、宮内から沖郷地区の蒲生田、郡山、赤湯地区の三間通付近に見られ、沖郷条里制として知られる。

堰や堤は、山間部を除くと、山裾に設置されるものと旧河道を利用して設置されるものに大別される。

山裾の堤は、梨郷の片岸の堤、宮内のからばち堤、内原堤、赤湯の西町の堤、南森丘陵の裾にあった清水尻の堤等がある。旧河道を利用した堤は、沖郷地区を流れていた吉野川旧河道の堤群（丸堤（上堤）・長堤、島堤、中堤、備堤、合羽堤、弁天堤、蓮堤、宮崎持上堤、西堤、蓮池）、そこから分流した郡山堤、中ノ目堤、新堤（前小屋堤）がある。また赤湯には同様に古堤、千刈田堤、長岡堤、姫柳堤がある。織機川の旧河道を利用したものとしては砂塚字堤端の堤がある。その他、閑根堤、鞠ノ木堤が見られる。

現在は埋め立てられた堤もいくつかある。



第1図 土地利用図 全体

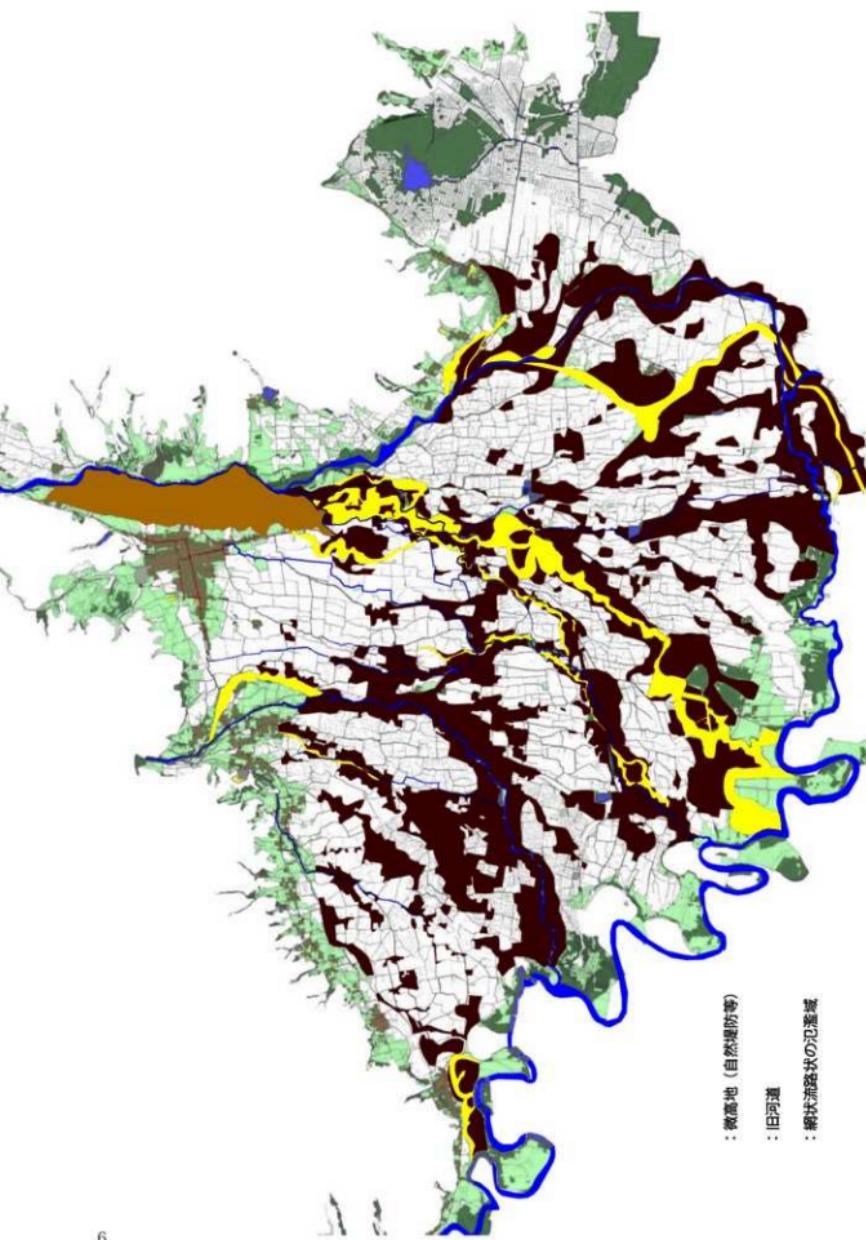
1km

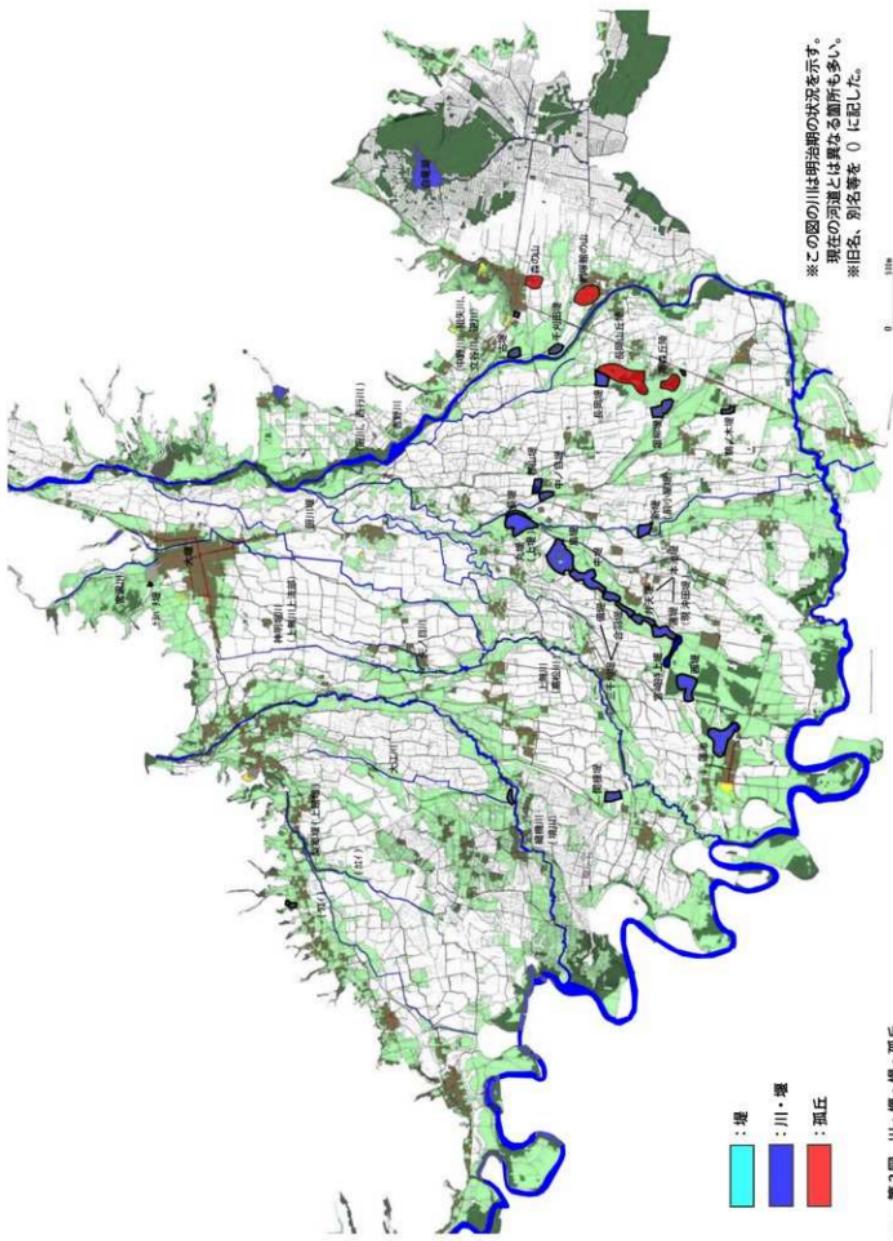
第2回 旧河道・高高地

：高高地（自然堤防等）

：旧河道

：網状流路状の氾濫域





第3図 川・堤・堆・孤丘

2. 字限図と古墳について

字限図から作成した土地利用図では、古墳や塚と思われる地形を読み取ることができ。古墳がどのように字限図に表現されているか検証しながら、古墳の可能性がある地形について俯瞰する。

①稻荷森古墳

市内の古墳で、平地部に立地する古墳では、赤湯の長岡地区に所在する稻荷森古墳が知られている（第4図）。稻荷森古墳の字限図では、墳丘はすべて山林で、地割形状は前方後円墳の地形を元にしていることが分かる。

見るべき点は、後円部の頂上付近で三本の区画線が交わっている点である。これは山の字限図で山の稜線に沿って地割した状況に類似し、これが高塚であることを表している。草地や山林が平野部に点在し、その地目内の中央付近で区画線が交わるものは高さのある地形、高い塚を成している可能性があると見ることが可能であり、字限図から古墳や塚を推定するうえで考慮しておく必要がある。

なお、稻荷森古墳では平成5年度の字限図調査で、墳丘周りの大区画地割や南東の農道が旧丘陵の地山ラインを反映していることや、古墳東側の丘陵切離し幅が約20mであることが推定され、その後に実施された発掘調査等からその推定が概ね妥当であることが確認されている（第5図）。また、他地域の古墳では周溝が古墳を取り囲む水田跡として見られる場合があるが、稻荷森古墳ではそのような明確な周溝跡は見られず、この点も発掘調査結果と一致している。

隣接する南森丘陵は、稻荷森古墳以上に周囲の斜面が明確に区画されており、高さのある丘であることがわかる。南森丘陵は古墳かどうかの確認調査が進められている。

②長岡山古墳群

長岡山丘陵の尾根に立地する古墳群である。墳丘は削平され周溝のみ検出された。またの主体部が1箇所確認されているが、これに伴う溝跡は検出されず墳丘は不明である。

第6図は長岡山の土地利用図と遺構の位置を示した図である。長岡山は中世館が作られた歴史を持ち、明治8年段階で古墳群を示す地割は既に見られない。

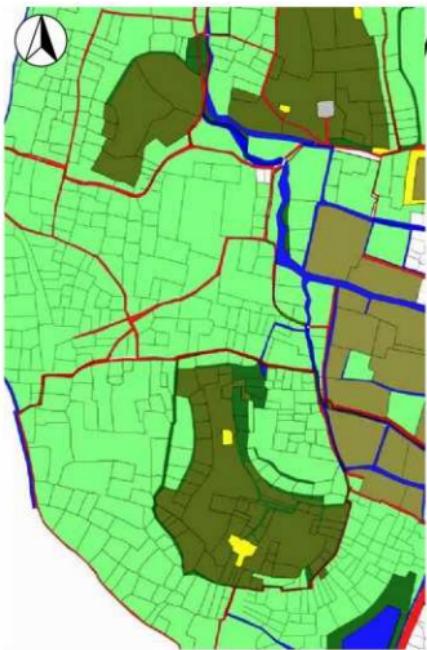
ただし、山頂部の南東端に方形に近い地割の山林が残存している。濃い緑色は草地で斜面や窪地と見られ、当該地割の北辺は窪んでいたか、或は山林部を最高所とする斜面と思われる。この方形地割は、館跡による地形か或は方墳であった可能性はあるが、現在は完全に削平・消滅しており、検証することができない。

③大塚遺跡

沖郷の萩生田地区に位置する。吉野川旧河道の右岸に古墳群又は方形周溝墓が15基確認されている。第7図は大塚遺跡周辺の土地利用図と遺構の位置を示した図である。発掘された古墳のうち最大の古墳（SH257）が、明治8年時点で墳丘の一部が残存していたことが分かる。

この事例のように、古墳や塚は水田や畑地内にぽつんの残る草地として表現されている場合があり、古墳群の南に見られる小さな草地群も、このような墳丘の残存の可能性が考えられる。

また、現存する馬の墓古墳は方形の神社地として表現されている。



第4図 稲荷森古墳と南森丘陵



第5図 稲荷森古墳周辺土取跡推定図



第6図 長岡山古墳





第7図 大塚遺跡

大塚遺跡周辺地で、この事例に似た水田や畑地内にぼづんの残る草地を第9図に示す。多くは吉野川旧河道沿いの自然堤防上に立地し、立地環境も類似する。A～K地点のうち現在塚状の地形が残るのはJ地点のみである。C地点は、地目内で区画線が交差しており高塚であった可能性が高い。この隣地では試掘調査が実施されており、古墳時代の高坏等の土師器が出土している。またCの北側、島貫共同墓地付近を通称「狐塚」と言い、経塚状のものがあったと地元に伝わる。J地点は地権者の話では昔から塚状であったと言うが、庭の築山のような状態である。

第9図に示した他、同様の草地は、沖郷の高梨字富塚、法師柳字川久保・千刈田、法師柳字北ノ前2、池黒の字弁天でも確認される。このうち高梨字富塚では古墳時代前期の土師器甕が、池黒字弁天では古墳時代中期の高坏が出土又は表採されている。

④西高塚古墳

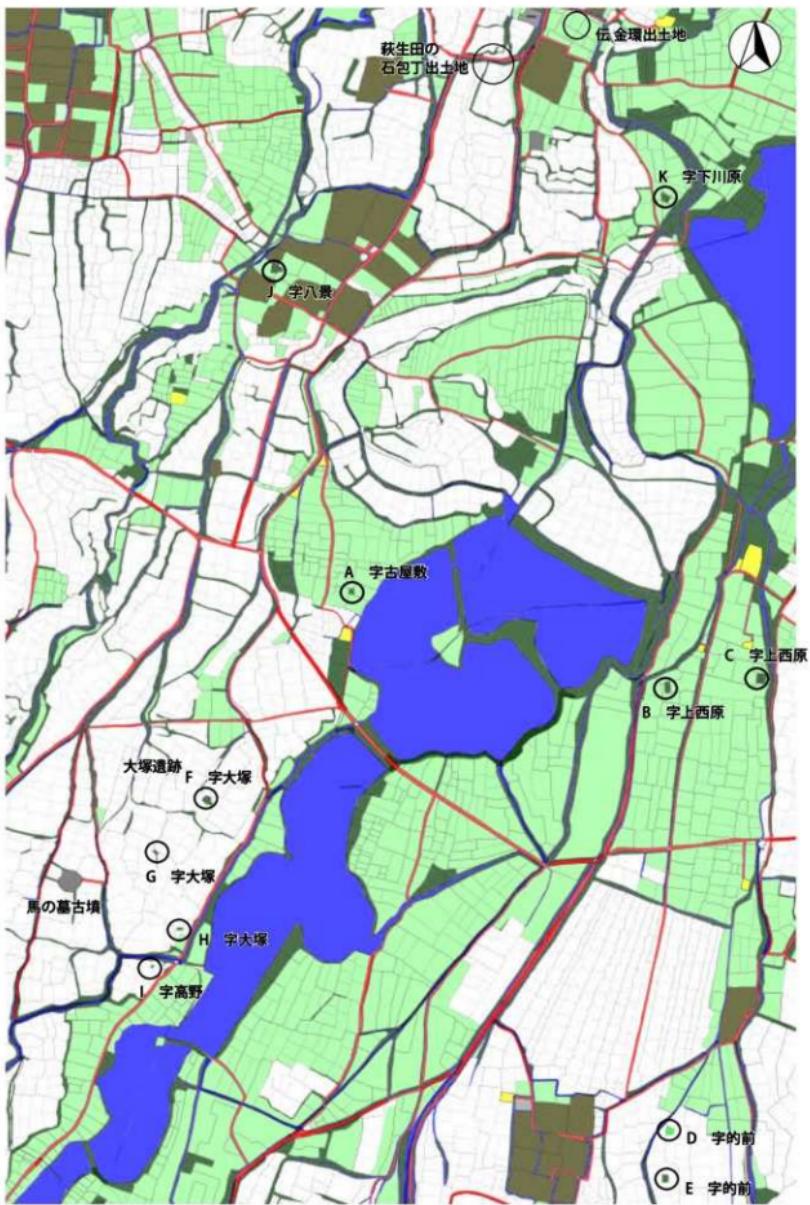
西高塚古墳は、漆山字西高塚1、織機川旧河道と大江川の自然堤防上に立地する。昭和34年に地元有志が発掘を行った。墳頂からは川原石が多量に検出されたが、出土品は無かったと言う。

直径16mの円墳で高さは2mとされる。現在は削平されて墳丘は消滅している。明治8年の字限図（第8図）では、畑地内にぼづんと草地があり、その中心を交点とした複数の区画線が見られる。高塚である場合に見られる地割であり、高さが2mあったという記録に一致する。

西高塚古墳の南西の自然堤防には弥生時代の遺跡でもある大仏遺跡や古墳群が確認された天王遺跡が広がる。



第8図 西高塚古墳



第9図 沖郷地区の塚状地割の分布

⑤天王遺跡（古墳群）

天王遺跡は、漆山字天王に所在する。織機川の旧河道、大江川右岸の自然堤防上に立地する。平成18年度に県埋文センターにより発掘調査が実施され、古墳時代前期の円墳3基と方形館跡とみられる遺構が検出された（第10図）。字名の天王は、牛頭天王を祀る神社に由来する。牛頭天王社は古墳群の北に位置し、字限図では隅丸方形の草地として表現されている。平成5年字限図調査の時点に牛頭天王社のあるこの草地は円墳の可能性が高いと把握していたが、その後の発掘により近接して3基の古墳が確認されたことで、よりその可能性は高まった。

調査で検出された3基の古墳は、明治8年段階で既に削平されていたと思われ、地割から古墳を読み取ることはできない。

また、発掘調査で検出された方形居館跡であるが、字限図では水田や畑地の区割りにその堀跡の痕跡が残る。故錦三郎氏の研究によれば、この場所には漆山在住の吉田氏の屋敷があったという。



第10図 漆山字天王の地割と遺構

氏家信行ほか 2007『大塚遺跡・西中上遺跡発掘調査報告書』

（山形県埋蔵文化財センター調査報告書第158集）財團法人山形県埋蔵文化財センター

高橋一彦ほか 2010『天王遺跡第1・2次発掘調査報告書』

（山形県埋蔵文化財センター調査報告書第186集）財團法人山形県埋蔵文化財センター

⑥「塚」・「壇」・「森」地名と古墳

市内の「塚」のつく小字名は、山を除く平地では 17 箇所である。沖郷 10 箇所、赤湯 4 箇所、漆山 2 箇所、梨郷 1 箇所で、このうち一つの範囲を隣り合う地域で分割している例が見られるため、その重複を除けば、計 14 地点となる。山間地では金山 1 箇所、吉野 1 箇所に塚地名が見られる。地名の由来として、主なものとして古墳、経塚、洪水堆積土、墓地が考えられ、それ以外を不明としてこの 14 地点を見ると、古墳に関連するのは 4 地点 (28.6%)、経塚は 4 地点 (28.6%)、洪水堆積土は 3 地点 (21.4%)、墓地 (伝首塚) は 1 地点 (7.1%)、不明 2 地点 (14.3%) である。

次に市内の「壇（檀・段）」のつく小字名は、山を除く平地で 26 箇所である。沖郷 12 箇所、赤湯 4 箇所、漆山 3 箇所、梨郷 6 箇所、宮内 1 箇所である。山間地では金山 1 箇所、吉野 2 箇所に壇地名が見られる。「塚」と同様に由来を見ると、経塚は 1 地点 (3.4%)、洪水堆積土は 3 地点 (10.3%)、墓地は 15 地点 (51.7%)、不明は 10 地点 (34.5%) である。

「森」のつく小字名は、山を除く平地で 7 箇所である。赤湯 6 箇所、中川 1 箇所である。山間地では、赤湯 1 箇所、中川 3 箇所、漆山 3 箇所、梨郷 10 箇所、金山 1 箇所、吉野 21 箇所となっている。いずれも由来はドーム状に盛り上がった丘や山にちなむと思われる。平地にある 7 地点をみると、赤湯では、森の山に由来するのが 3 地点、稻荷森 1 地点、南森 2 地点、中川は中ノ森 1 地点である。このうち山自体を示す地名は、「森」「稻荷森」「南森」「中ノ森」で、このうち「稻荷森」は稻荷森古墳、「中ノ森」は館跡である。

小字名の採録地点が市内に限定されているものの、「塚」地名のある所に墓地はほとんど無く、古墳や経塚が多い傾向が見られる。逆に「壇」地名は、墓地に由来する傾向が強いと考えられる。また、ともに河川氾濫域では洪水による土砂堆積地を示す地名にも用いられる場合があるようである。

地区名	塚地名	地区名	壇地名	地区名	森地名	地区名	森地名
沖郷	温生田 塚山	沖郷	坂井 墓之前	赤湯	森前	吉野	上萩 明神森
	温山 塚山		高型 墓之前		森先		上萩 梨ヶ森山
	門坂 三ツ塚		高型 墓之前		森		小瀬 中森沢
	台聖 宮塚		高型 伊與壇		初森山		八森
	中の日 経塚		長藤 墓壇		稻荷森		貞白森
	中の日 北経塚		長藤 墓越		漆山		手白森
	萩生田 大塚		中の日 墓ノ前		長岡		手白森山
	宮崎 三ツ塚		鶴田 庄相		長岡		手白森山
	中の日 南経塚		鶴田 墓ノ前		南森西		手白森山
	鶴田 南経塚		鶴田 宝藏相				
赤湯	大船 甫経塚	赤湯	味之助壇	吉野	梨塔	中川	大森
	小舟 塚山		元鶴田 飛牛壇		森前		竹原 丸森沢
	鶴屋 塚山		鶴田 四前		森		竹原 小丸森沢
	大船 安塚		鶴屋 松木相		下萩		竹原 大丸森沢
	漆山 漆山		三間通 平穂壇		黑森山		竹原 黒森
梨郷	安郷 墓塚	梨郷	池黒 庄相	吉野	太郎 丸森	太郎	丸森
	安郷 墓塚		池黒 墓の前		太郎 大森山		丸森
	安郷 墓塚		池黒 五輪壇		太郎 墓ケ森		太郎
	安郷 墓塚		松木増 康中壇		下萩 高森		太郎
	安郷 墓塚		梨塔 墓ノ前		下萩 中ノ森		太郎
	安郷 墓塚		和田 和光院壇		下萩 入中森		太郎
	安郷 墓塚		竹原 法界壇		下萩 中ノ森山		太郎
	安郷 墓塚		竹原 墓ノ入		下萩 中ノ森		太郎
	安郷 墓塚		宮内 宮内		下萩 中ノ森		太郎
	安郷 墓塚		金山 金山		下萩 入中森		太郎
吉野	和郷 経塚	吉野	金山 相向壇	吉野	下萩 也森森	吉野	也森森
			淨海壇		下萩 茄子森		茄子森
			二十日壇		下萩 恵美須森		恵美須森

表2 市内の塚・壇
・森の小字名

第3章 土地利用図調査（地区別調査）

1. 赤湯地区

(1) 赤湯地区の概要と特色

赤湯地区は、宮内扇状地南東の扇端に位置し、北に白鷹山山地の大平山山地南端にあたる烏帽子山、東に大湿地帯である大谷地が広がる。

烏帽子山から長岡にかけて、森の山（消滅）、樅塚館の山、長岡山、長岡南森といった独立丘陵が大谷地の西方に連なる。吉野川が貫流しており、南東に向かって流れた河道は俎柳地区東側で西に流れを大きく転じる。

字限図から作成した土地利用図を見ると、白竜湖を中心とした大谷地特有の土地利用状況が特徴的である。また、独立丘陵や自然堤防に立地する集落（樅塚、長岡、俎柳、大橋）、山裾の集落（赤湯、金沢、松沢）が見られ、大谷地や河川による低地を避けた集落配置が伺われる。吉野川の旧河道沿いにはいくつかの堤（古堤、千刈田堤、長岡堤、俎柳堤）が見られる。また、白竜湖周辺には複数の池塘が存在していたことが分かる。

①白竜湖周辺の土地利用（第11図）

白竜湖周辺では、かつては大きく五つに分類される特色ある水田が見られた。一つは普通の「堅田」で、県道102号（旧国道13号）の西側、次に耕耘に牛馬の使用可能で膝くらいまで泥に沈む「ひどろ」と呼ばれる泥田、「ひどろ」の次には牛馬が入ることのできない「中段」、その次に深い泥田である「谷地田」が続く（特に深い水につかっている泥田は「どんぶけ谷地」と呼ぶ）。最後に、泥炭原野を谷地鎌で開墾した「起こし田」がある。

土地利用図を見ると、湖の東には広大な原野が広がり、地目は草地、萱場である。白竜湖の西から南に接する水田は畦畔の幅が特に太く、長方形の区画（緑色）が目立つ。この範囲が「起こし田」の範囲と思われ、泥炭湿地を谷地鎌で切って開墾した水田であろう。切り残した部分を畦畔にするため、そこが草地として表現される。

その外側は大区画の水田である。図では白く見える範囲で「谷地田（どんぶけ谷地）」と呼ばれた田んぼと思われる。深い泥田であるために小区画の畦畔を作ることができない範囲と思われる。当時の道（赤い線）もそのほとんどが「谷地田」の範囲の手前で途切れおり、その先は歩いていくことができない状況がうかがえる。

大区画水田の外側には不整形の小区画の水田が見られる。「中段」と呼ばれる牛馬が入れない泥田と思われる。堅田と湿地の境に分布するのは、「ひどろ」と呼ばれる膝までの泥田である。「中段」と「ひどろ」の境は図では明瞭ではないが、より太い道があり、畑が散見され始めるあたりが「ひどろ」の範囲ではないかと思われる。これらの特徴的な泥炭水田は現在は土地区画整理事業によって乾田化されている。（参考 白竜湖（2）－平成28・29年度 山形県指定天然記念物 白竜湖泥炭形成植物群落調査報告書－ 2018年3月南陽市教育委員会）

②災害地形（第12図）

災害地形として、古堤（字堤端）の東方及び千刈田堤（字湯河原）の南東に水田の中に多くの島状の畑地が残る。おそらくこれは過去の水害による土砂堆積地で、溜まった土を除去しきれなかったものと思われ、この島状畑地の分布する範囲は洪水の被災範囲

と考えられる。この島状畠地の分布が見られる起点は、一つは古堤付近で、そこから吉野川左岸を南東に広がる。古堤の付近には字名として川原、石田、石法花、川端が見られ、その末端は柵塚字砂田付近である。もう一つは千刈田堤付近でそこから吉野川右岸を南東に広がり、末端は長岡字砂原付近である。

この土地利用図は明治8年（1875）の状況を示している。明治8年から概ね100年前までの災害史を見ると下記の記録がある。

- ・6年前、明治2年（1869）の洪水
- ・43年前、天保4年（1832前）の洪水。吉野川堤防60間押切りで泥海となる。二色根、俎柳の川欠け。
- ・45年前、天保元年（1830）の洪水。北条郷宝曆7年以来の洪水。吉野川・池黒川（織機川）氾濫し、赤湯の町は舟で通行、宮内は4尺余、砂塚・閑根・宮崎・池黒・漆山辺りも3・4尺の水付き、諸所の堤抜ける。
- ・118年前、宝曆7年（1757）の洪水。5月24～27日の大雨で2丈7尺の出水といい、赤湯は大川となり、織機川も大氾濫して流路を変えたと伝える。

これらの記録から洪水の規模や被災年からの経過時間を考えると、島状畠地を形成した洪水は天保元年か天保4年の洪水が原因の可能性が高いと考えられる。

この他の災害地名としては、柵塚字押出は、洪水により押し寄せた土砂の堆積を示し、三間通字堰欠は洪水で堰が破損したことを示す小字名である。



第11図 明治8年 白竜湖周辺の水田



第12図 洪水の痕跡（島状畠地）

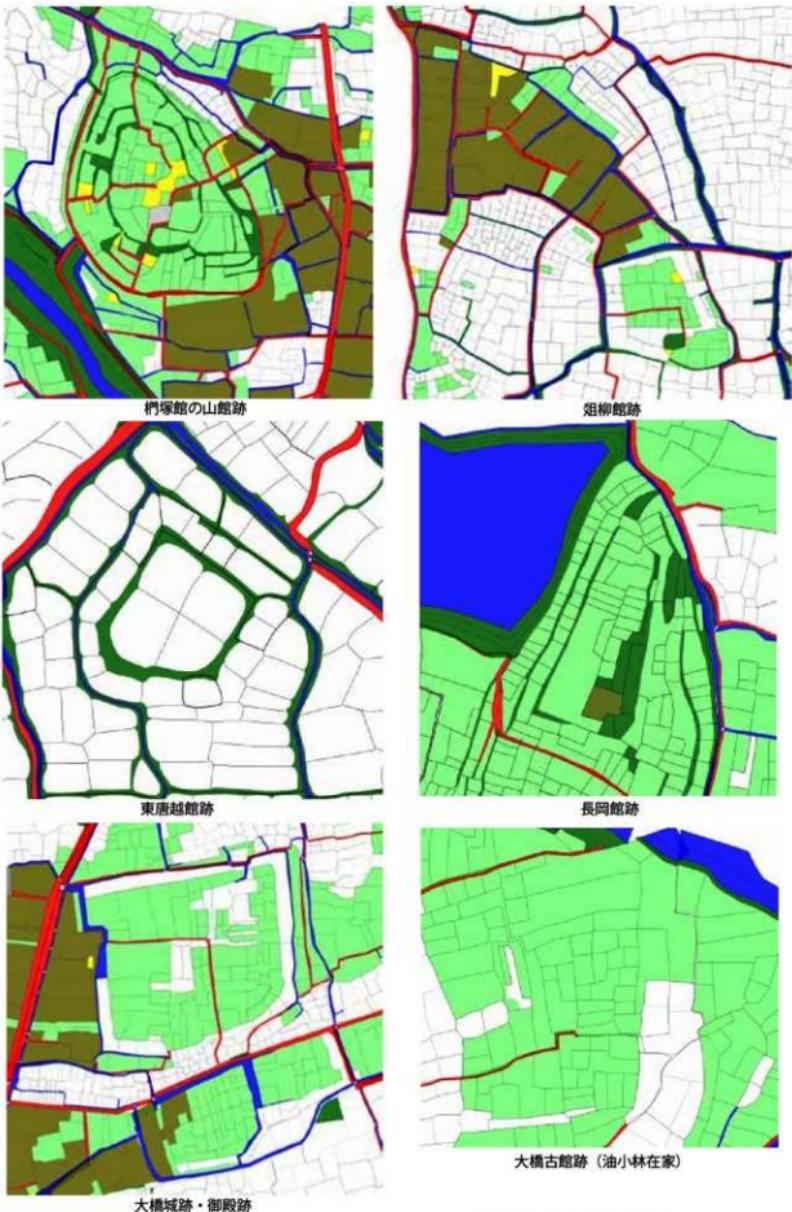
③赤湯地区的集落・屋敷・館等

明治 8 年の赤湯村の集落を第 13 図に示す。集落の規模は江戸時代からあまり変わっていない。江戸時代には結城記念館前北東角と清水町の永仁二年磨崖板碑の所に町に入りするための木戸が置かれ、その内側が赤湯であった。表町通りは長岡表町線（結城記念館前の通り）の所で L 字に屈曲しており、現在のように直進していない。大谷地から続く水路は西町の堤まで続いており、現在の御神坂の下まで谷地舟での往来ができたという。

字限図で判読可能な屋敷・館跡（第 14 図）は、柵塚館の山館跡、粗柳館跡、東唐越館跡、長岡館跡、大橋城・御殿跡、大橋古館跡（油小林在家）である。

柵塚館の山館跡は、周囲を水堀で囲む卵型の丘城で、水堀跡は水田になっている。山の斜面に数段の曲輪が確認される。粗柳館跡は、街道から一番遠い東端に方形館を置く。方形館の周囲の堀跡は水田になっている。東唐越館跡は、五角形を呈し、周囲の堀跡は水田になっている。長岡館跡は、長岡山丘陵に立地し、南北に長い長方形を呈し、三段の曲輪が確認できる。頂上は南と北に分かれていた可能性がある。大橋城は、水田になった堀跡に囲まれた方形の主郭と、堀の役目を果たす旧河道を挟んで南に御殿跡が確認できる。大橋古館跡は、西堀と南東角の堀が水田としてわずかに残るが大部分は畠地となっている。畠の区画から方形の屋敷跡が確認でき、湯目文書に出てくる油小林在家の可能性がある。



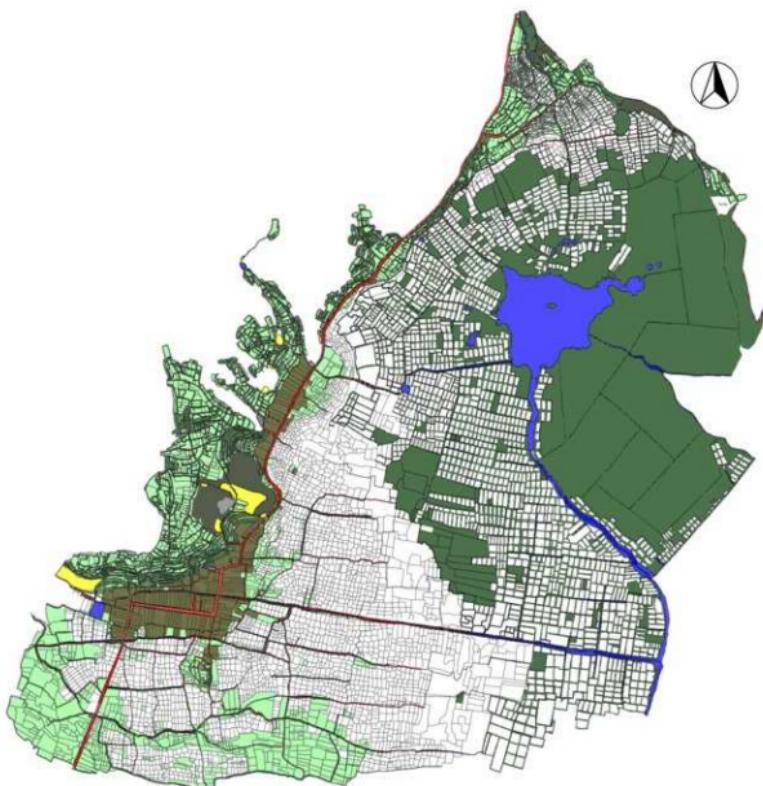


第14図 赤湯の屋敷や館跡

(2) 土地利用図（赤湯）

①赤湯

大谷地、特に白竜湖に関連する地名が湖を中心に同心円状に分布する。湖の東には「鳥喰」地名が見られる。現在も葦地で多くの鳥の繁殖地になっている。南は「沼尻」地名で湖の末端の意味で、その外側に「芳野前」、「新田前」が見られる。西は「沼端」、「ガムシ沼」、「ドドメキ」等、沼や湖への流水に関する地名が見られる。北には「中堀」が見られ十分一山からの水路を示す。集落は、馬町、本町に集中し、山添いに現在の清水町、北町方面へ集落が連なる。「馬町」は馬市にちなむ名称である。正保2年に馬市が設けられる以前は「新町（アマチ）又は荒町」で、「深山」「寺山」に位置する深山寺或いは東正寺を背景とする商業地であったと思われる。「森」は森の山に由来する。「川原」は河川敷である。



第15図 土地利用図 赤湯



第16図 赤湯の小字名

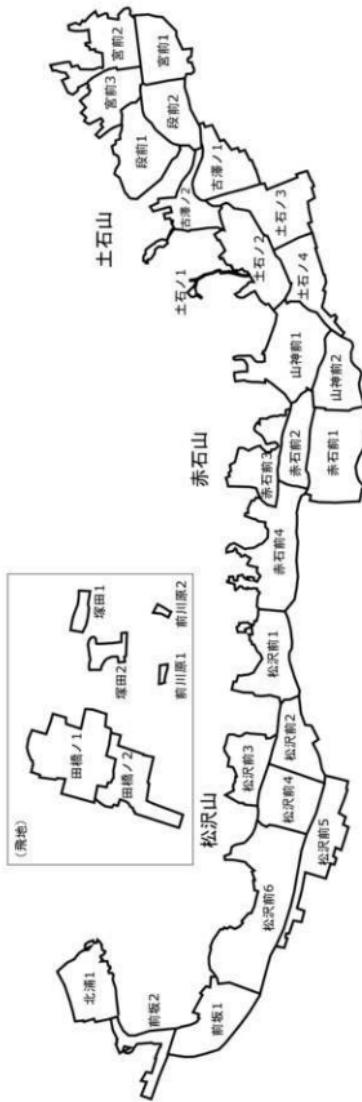
②松沢

山の南裾に大谷地に面した集落が散在する。「松沢前」「赤石前」「土石」は全て背後の山の名称（松沢山、赤石山、土石山）に由来する。「宮前」は草刈八幡神社に由来する。この神社には源義家が東征の際に武運を祈り、馬に草を刈り与えたという伝承がある。



第17図 土地利用図 松沢

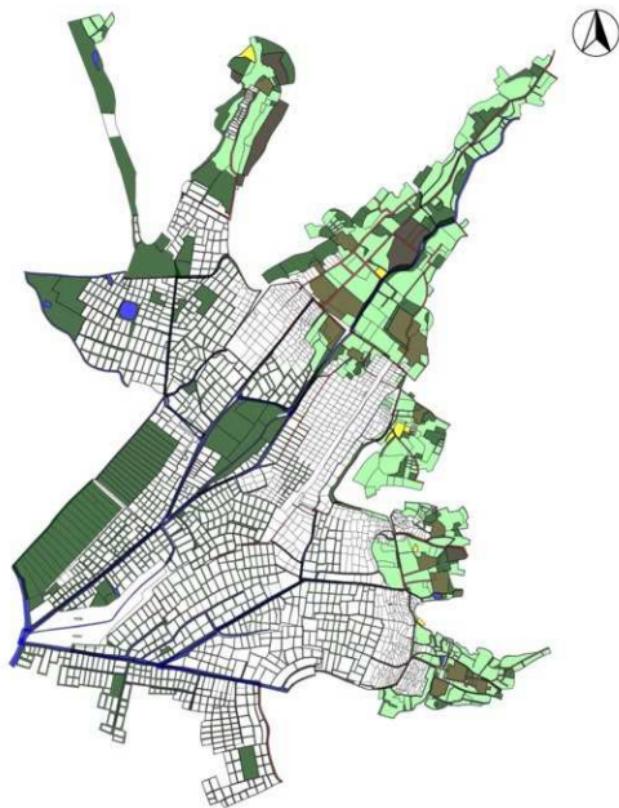
第18図 松沢の小字名



③金沢

谷地に面した山裾に集落が散在する。大谷地の「蓮沼」には池塘が見られる。金沢は鉱山に依頼する。寛永6、7年頃に最盛であった堅刈金山や取揚坂の鉱山があった。

「入金」「七両坂」「天秤屋」「転石」「大小屋」等、鉱山の開発に由来するとされる小字名が見られる。



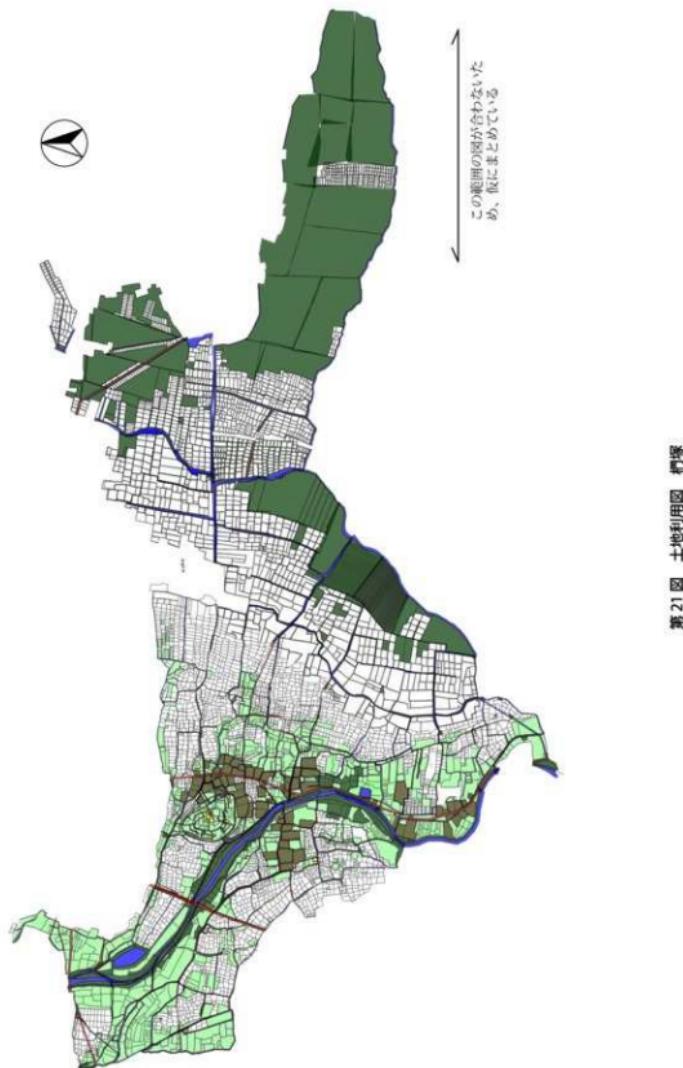
第19図 土地利用図 金沢



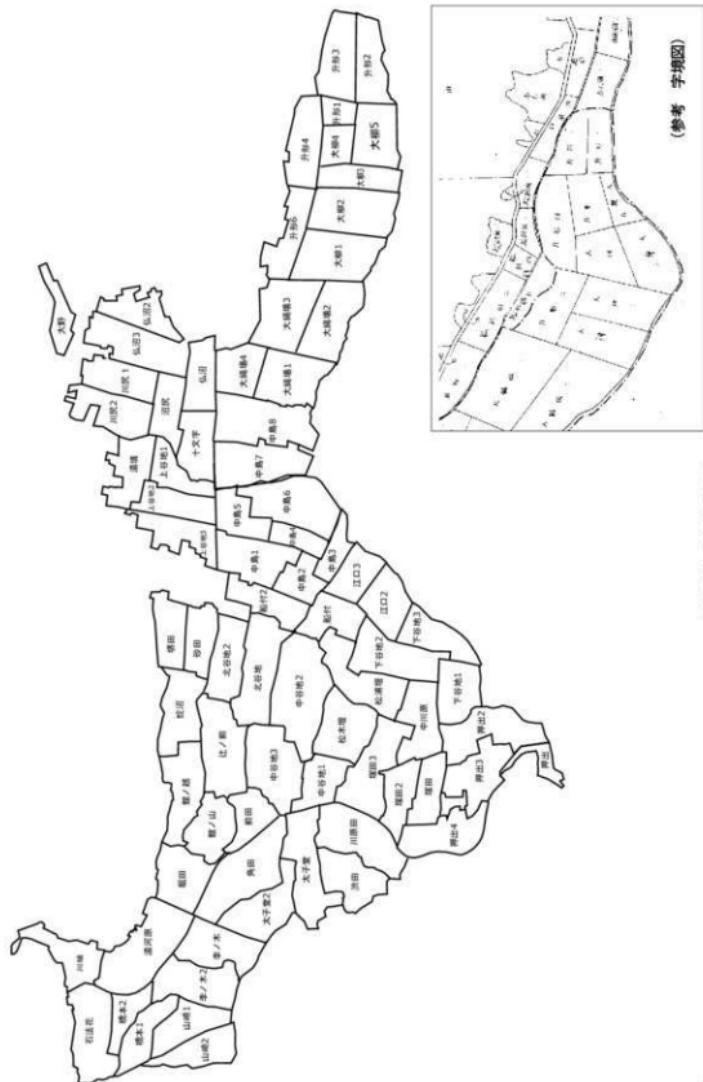
第20図 金沢の小字名

④柵塚

館ノ山の東から吉野川左岸沿いに集落が連なり、地区の西よりを吉野川が南東流する。地区東半は大谷地になっている。大谷地内の地名には湿地に由来するものや開拓地名が見られる。「船付」は船着き場と思われ、松沢から柵塚に至る水路は松沢口ノ舟道と呼ばれた。度々洪水被害を受けた地域であり、吉野川の近くには、洪水による堆積土を示



す「押出」が見られ、「塚田」もおそらく洪水堆積土が塚状に残った場所と思われる。「川原田」「川端」「湯河原」「石法花」は河川跡を示す。「角田」は中世屋敷の付属耕地の門田も考えられるが、川べりであることから洪水で欠けた田（欠け田）の転化と思われる。「館ノ山」「館ノ越」「堀田」は、中世城館址関連地名である。



第22図 桶塚の小字名

⑤二色根

二色根館跡のある二色根山（「館山」「南京」「南京觀音林」「藥師山」「浦山」「中の山」「秋葉山」）の南の山裾に集落が位置する。地区の中央を吉野川が南東流するが、山裾には旧河道が走る。「館の内」「壁の内」「根小屋」「根小屋前」「根小屋浦」「的場」は二色根館に関連する。「大門」は薬師寺の門と思われる。「水溜」「綿内」は湧水地名である。



第23図 土地利用図 二色根

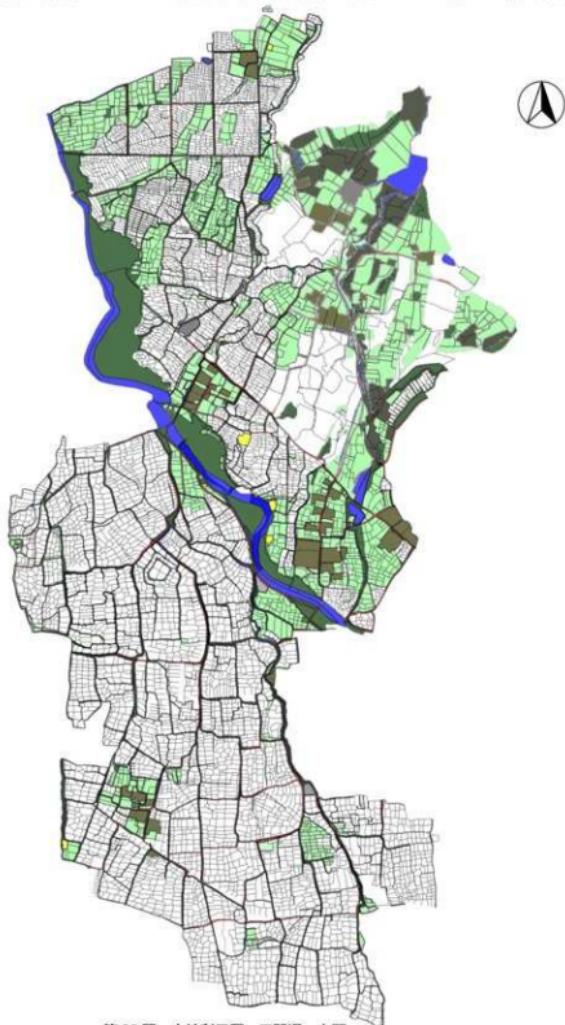
「大日前」「大日浦」は大日如来を祀ったお堂に由来する。「上氷堂」「下氷堂」(シミツウ)は、志味堂(四昧堂)観音堂があったことに由来する。「石田」「下川原」「堤端」は旧河道や洪水氾濫地名である。「砂田」「起田」は洪水により生じた微高地を新田開発した地名と思われ、「面田」は開拓地の免税地を示す「免田」と思われる。



第24図 二色帳の小字名

⑥三間通・上野

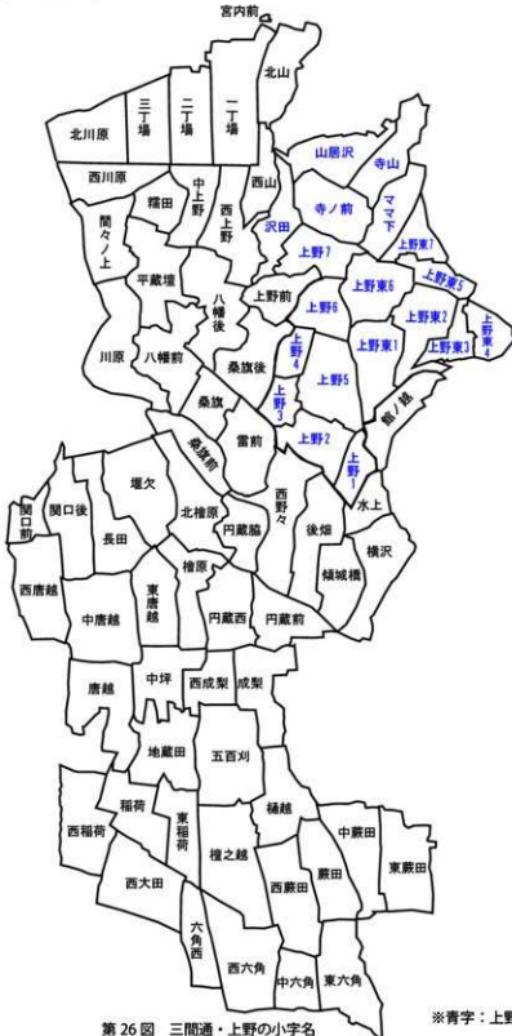
上野段丘の裾を南東流する吉野川が地区を大きく南北に二分し、主に上野段丘上に集落が見られるが、稲荷集落のみ平地に位置していた。洪水地名としては「堰欠」が見られる。「六角」は、六面幢があったことに由来する。「稻荷」は稲荷神社に由来する。「東唐越」には館跡が残る。「円蔵」は現在の蝦夷神社に由来する。「傾城橋」は二色根の根小屋跡の屋敷を利用してできた茶屋(一種の遊郭)に通うために渡った橋に由来する。「桑



第25図 土地利用図 三間通・上野

旗」(か'タ)は川端か。「一丁場」～「三丁場」は近世における耕地整理跡である。「雷前」は雷神社に由来する。間々(ママ)は崖の意味である。

上野(ワ)は、段丘を意味しているとされる。周辺に上野山(ワノヤマ)等、ワノと読む地名が広く見られる。二色根城主粟野氏との関連で、かつて二色根から宮内付近を粟野郷と称した名残とも考えられる。「山居沢」の山居は、耕作地を分けて分家する散居の當て字と考えられる。



第26図 三間通・上野の小字名

*青字：上野地区

⑦長岡

長岡山丘陵と南森丘陵の東側に集落が広がる。「稻荷森」は稻荷森古墳、「南森」は長岡南森遺跡である。長岡山（「小生堂」「西田中西」）には長岡山館があった。「小生堂」の由来は越王堂で、長岡山に学校が建設される前にはお堂があったという。「金屋神」は鍛冶の神に由来する。

「境田」から「砂原」にかけ南東方向に島状畠地が見られる。これは洪水による堆積



第27図 土地利用図 長岡

土を除去しきれなかった跡と思われる。「砂原」「開田」にかけて吉野川が蛇行していたと思われ、「大巻」も川が大きく曲がった地点を示している。「四釜」のシカは砂洲を、マは場所を表すとされ、河川による砂の堆積地と思われるが、四釜在家（俎柳）との関連も考えられる。集落地は元々「田中」で、それが西と東に分かれた後、「西田中」の南に「西田中南」、西に「西田中西」の地名を配したと思われる。「入尾免」は井料免で、用水管理用の共同水田に関連する免税地である。



第28図 長岡の小字名

⑧姐柳

地区内で吉野川が大きく西へ流れを変える。地区の南東部には大谷地やその開拓に関連する地名が多く見られる。「吉見分」は江戸時代に吉見次右工門の開拓とされる。「右京」は右京在家や、右京堰をつくった人物との関係が考えられる。

集落は姐柳道（御番所道）の東に位置する。集落東端の「堀田」に方形の城館又は屋敷址が見られ、集落全体で連廓式にも似た配置となっている。「中丸」は天文 22 年湯目文書にある中磨郷の転化と思われる。「才藤」は斎藤在家に関連すると思われる。



第29図 土地利用図 姐柳

「水上」「水下」など、水にちなんだ地名が見られる。

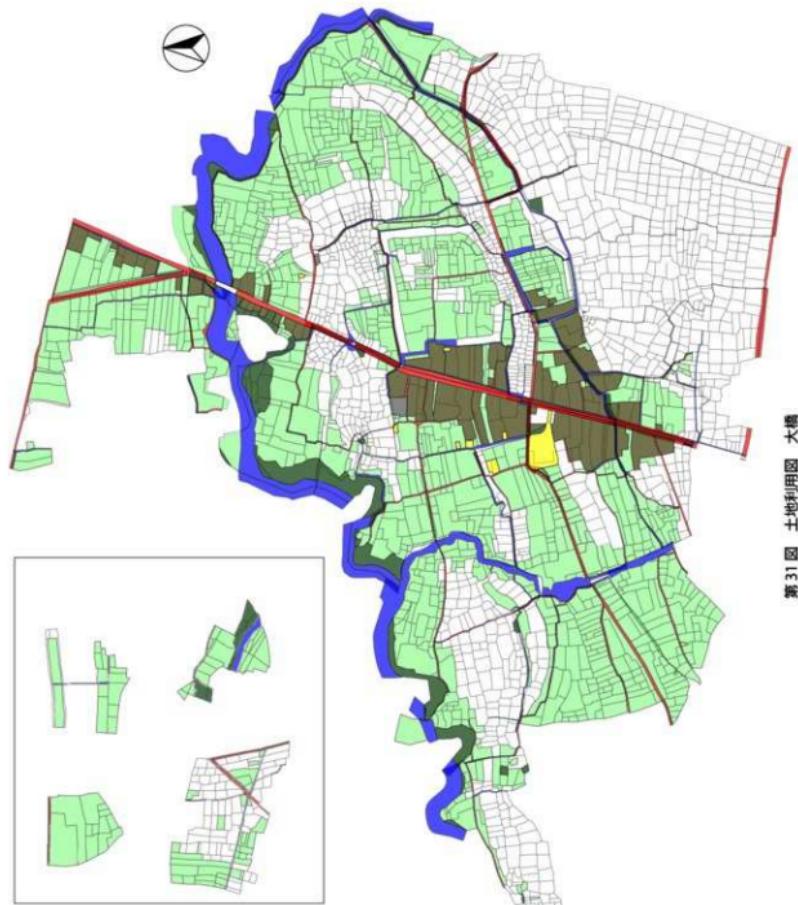
地名としての「姐柳」は「真板柳」とも記される。調理に使うマナイタに由来する伝説が残るが、清浄な水を示す真名井地名の可能性も考慮する必要がある。なお、隣接する鍋田地区には「まないのまい（真名井の前）」「まないじょう（真名井城か）」の地名があったことが知られている。



第30図 姐柳の小字名

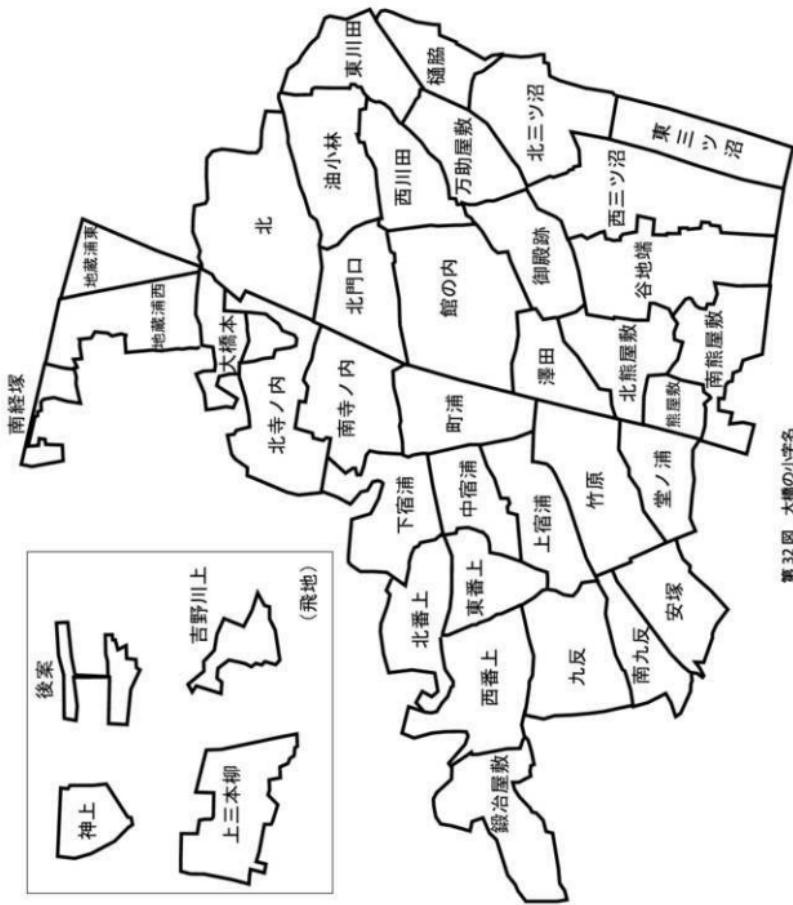
⑨大橋

吉野川左岸の自然堤防と後背湿地にあたる。自然堤防上に大橋城があり、主にその西に小城下町的な集落が広がる。地区南東には谷地関連地名が見られる。地区的中央を東西に旧河道が走っている。「館の内」「御殿跡」「北門口」は大橋城と御殿跡に関連し、「熊屋敷」「万助屋敷」等の屋敷地名がその周間に分布する。「油小林」は油小林在家に関連する。「寺ノ内」は瑞光寺があった場所である。町の西方に見られる「番上」は番匠のことで大工、「鍛冶屋敷」は鍛冶職人の居住地と思われる。



第31図 土地利用図 大橋

「大橋」の大は美称である。橋は、橋或いは端の意と思われる。大橋の由来は橋にちむとされるが、明応元年（1492）湯目文書に「おおはし之郷」が出てくる。それ以前に郷名になるほど大きな橋が存在したのかどうか、屋代郷と赤井郷の境目であることから赤井郷の端や条里の端、或は屋代（高畠町）に進出してきた伊達氏の支配地に対する長井氏側の端や境の意味がないか検討の余地がある。



第32図 大橋の小字名

2. 宮内地区

(1) 宮内地域の概要と特色

宮内地地区は、宮内扇状地の扇頂から扇央に位置し、北は白鷹山山地の鷹戸屋山地で、その南端にあたる慶海山、武道作山がある。東は白鷹山山地の大平山地の秋葉山があり、その南西に内原段丘が広がり、その山裾を吉野川が南流する。

その平地部は、東に吉野川氾濫原が広がり、その西は集落地と条里水田が見られる水田地帯に分かれる

宮内の集落は、宮沢川の谷口に立地する熊野大社の門前町として栄えた。吉野川の谷口集落でもある。また、古くは熊野大社の北側の菖蒲沢地区（宮沢）が中心地であったと伝わり、宮沢城を始めとする城郭群が立地する。

①門前町の土地利用

大鳥居のある鳥居の場から北の宮町では、通りの左右に多くの坊が立ち並んでいた。『宮内町の文化財』（1965 宮内文化史研究会）によれば鳥居の場から北（菖蒲沢含む）を宮の内といい、熊野山の北方の沢あい（菖蒲沢地区）を宮沢と言ったとされ、この神領の外を宮外村と称したという。この宮外村が宮沢城の城下町、熊野大社の門前町として栄えたとし、現在の字宮前がその中心とする。

宮町の通りは、熊野大社の登り口から南に向かう直線の道路で、鳥居の場で東西からの道が互い違いに接続する。このように奥の神社から直線道路を曳き、直線道路に入ってくる道を互い違いにするという点や、途中の鳥居の場を武者溜まりとして利用可能な構造にしている点など鎌倉の町割りに類似する点がある。長井庄地頭が大江氏であったことが影響しているかどうかはわからない。これに対し近世に整備が行われたとみられる宮前・本町付近や柳町付近、糸町では城下町に見られるような鍵型の道路が見られ、宮町に比べ、新しい様相が加わっている。また、宮町の通りに面した屋敷に比べ、新町、宮前、横町、本町、糸町等、近世以降に整備が進んだ地域の屋敷は、道に面する間口が狭く奥行きが長い敷地になっていることも特徴である。

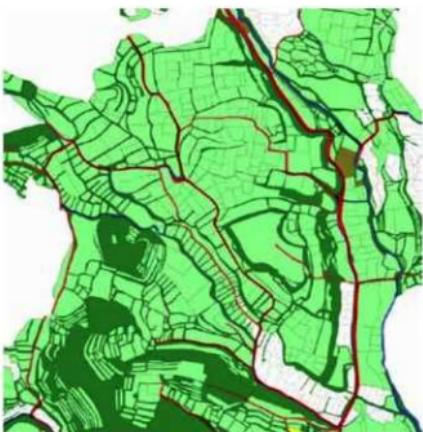
②災害地形

災害地形として、集落の東側の吉野川氾濫原の状況が見て取れる。現在のような堤防が無かった時代に、洪水で川幅を広げた川が何度も川岸を抉った様子がみられる。糸町1、下田4、黒木1・2、馬場1、久根崎と円弧状の川欠け地形が連続する。これらより東は網状流路状の河川氾濫原になっている。字一本杉でも同様の川欠けが見られる。

また、字砂押では、自然堤防が決壊したことによるクレバススプレーが形成されており、地名もその洪水の際に押し寄せ堆積した砂に由来している。

③宮内地域の屋敷・館等

字限図で判読可能な屋敷・館跡（第33図）は、菖蒲沢の宮沢城、宮内南館跡、字斎藤4の斎藤館跡、字馬場（館）跡、字黒木2の屋敷跡である。宮沢城は堀跡が水田になっており、斜面は草地で表現されている。長岡南館跡は山頂付近は全て草地に表現されているが斜面の曲輪が畠地となっている。斎藤館は主郭が方形で南にも曲輪がある。堀跡が水田になっている。馬場跡は大きな方形で堀跡が水田になっている。東南は川欠けで乱れている。黒木2の屋敷も方形で周囲を堀で囲む。



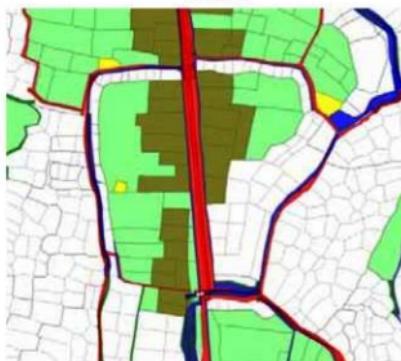
宮沢城跡



宮内南館跡



斎藤館跡



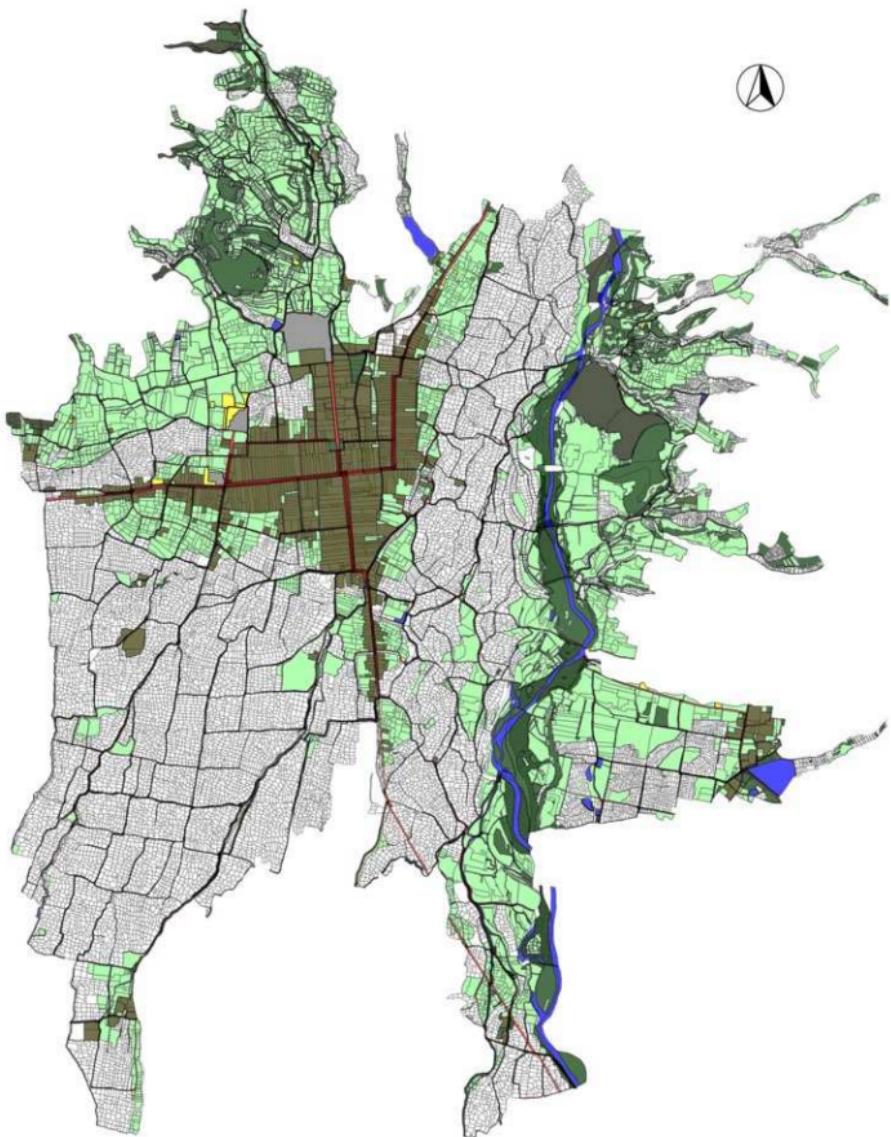
馬場(館)跡



黒木2の屋敷跡

第33図 宮内の屋敷や館等

(2) 土地利用図（宮内）



第34図 土地利用図 宮内



第35図 宮内の小字名

3. 金山地区

(1) 金山地区的概要と特色

金山地区は、東は白鷹山山地の大平山地、西は白鷹山山地の鷹戸屋山地が広がり、宮内扇状地の谷口から上流に位置する山合いの地の吉野川両岸に集落が分布する。谷底平地に吉野川の氾濫跡が見られ、山裾の高台に集落が立地する。

①災害地形

災害地形として地名を見ると、字流屋敷や字乱橋は洪水被害の地名と考えられる。字龍の口は、増水した水が龍のように流れくる場所と考えられる。字牛喰沢は地崩れ地名とみられる。字片岡5、字巻の澤、字桜渕、字河原付近では旧河道が確認される。

②金山地区の在宅・館等

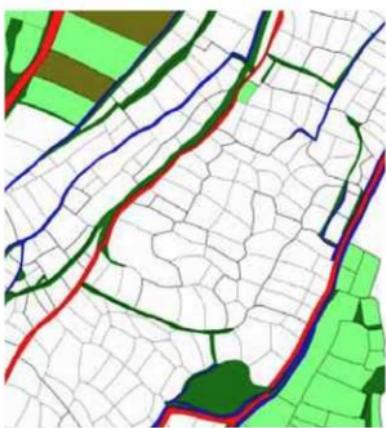
在宅は元々は荘園が年貢を徴するときの最下部の被割当者であったが、領主が年貢を課するときの単位となり、領内の個々の屋敷と付属の田畠を指す。金山地区では、平八在宅（天文18年（1549）湯目文書）、雀在宅（天文22年（1553）湯目文書）、けとう在宅（天正11年（1583）湯目文書）、白山在宅（天正13年（1585）北条段錢帳）、烟在宅、黒在家の6ヶ所の在宅が知られているが、金山地区にはこのうち現在白山在宅、烟在宅、黒在家の3ヶ所の小字名が残る。

館跡は、色部氏の館跡として平館が知られている。吉野川が米沢盆地に流れ出る谷口付近に立地し、吉野川左岸に位置する。近年、この東側の山々に権山館、天ヶ澤館などが確認されている。田中館跡は平館の北、吉野川左岸の字田中に位置する。二重の堀に囲まれた輪廓式の館である。立石館跡は吉野川左岸の字明神堂・字立石に位置する。長方形の館跡で、竜ノ口神社が立石館の辰方位に所在していた。字寺清水は元々東禪院があったとも言われる。字限図では中央に島を残す清水跡と思われる草地と墓地が見られる。

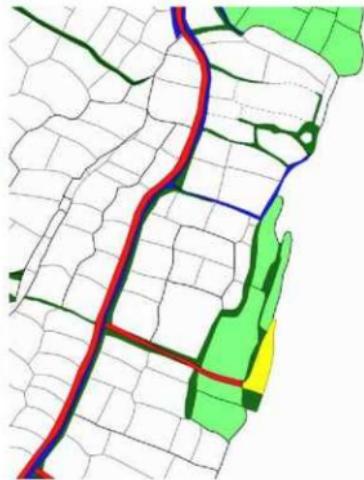


平館跡

田中立跡

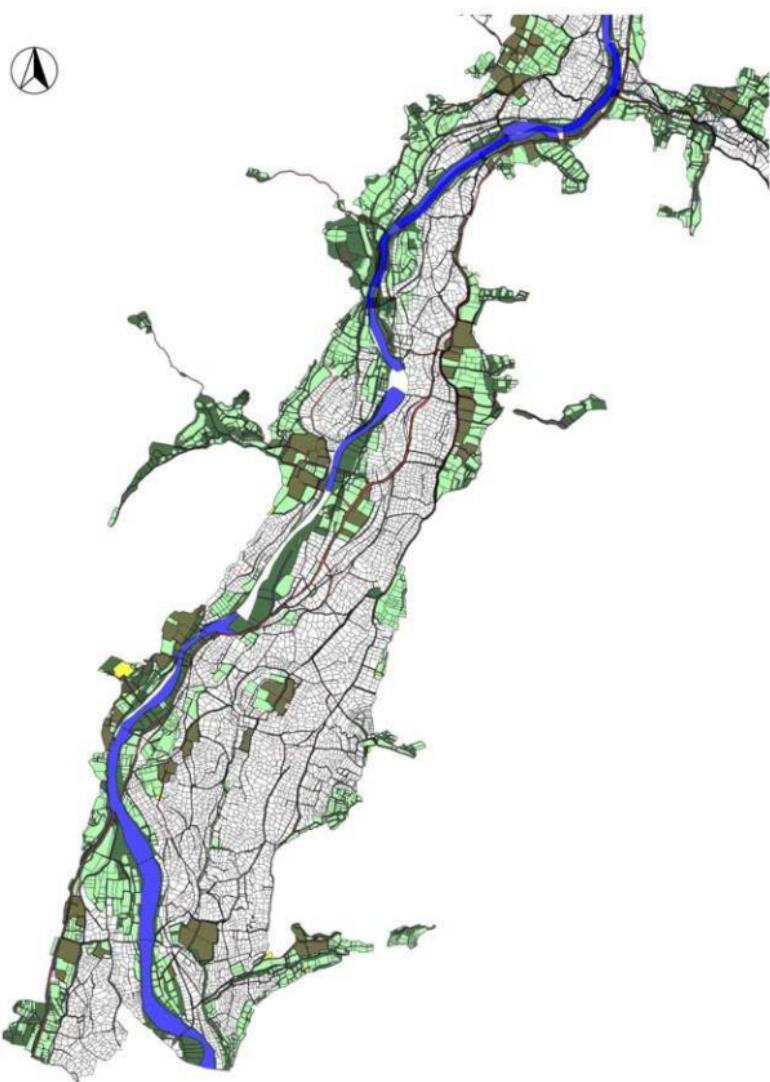


立石館跡



字寺清水

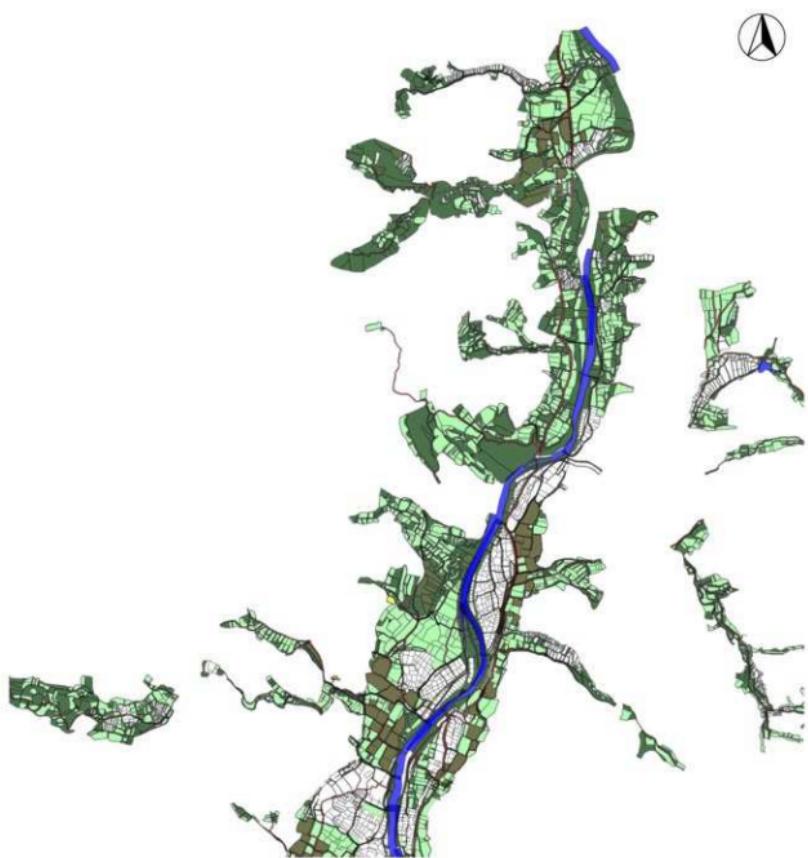
(2) 土地利用図（金山）



第37図 土地利用図 金山1（南）



第38図 金山の小字名1（南）



第39図 土地利用図 金山2（北）



第40図 金山の小字名2(北)

第4章 南陽市（赤湯・宮内・金山）の小字名及び地名

市内各地区の小字名、地名を地区別に記録する。その出典の凡例は表3のとおりである。
なお、これによらない場合は文献名を直接記載した。また古文書に見られる在地は、地名として残っていないものを字名・地名欄に（）で示した。

年	文献名	記号
1525	伊達稙宗安堵状（大永五年）	A
1538	鍋田郷土史（21頁 天文7年御段錢古帳）	B
1553	伊達晴宗公采地下賜録（天文22年）	C
1585	天文13年北条段錢状	D
1638	寛永十五御検地帳羽付村	E
1638	寛永十五年漆山村之内本之沢須刈田御検地帳	F
1638	寛永十五年北條之内漆山村御検地帳	G
1638	寛永十五年北條之内萩村御検地帳	H
1638	寛永15年北条之内赤湯村御検地帳	I
1638	寛永15年粗柳村検地帳	J
1639	萩生田村寛永治六年水帳之事	K
1639	寛永16年粗柳村検地帳（山形県史資料編9）	L
1656	明暦二年御狩場之図	Lb
1739	元文4年温泉記（市史編集資料26号P.34）	M
1767	明和4年北條之内長瀬村御検地帳	N
1781	鍋田郷土史（17・18頁 天明元年）	O
1786	天明6年文書	P
1790	寛政2年鹽入石中山之在釜渡高帳	Q
1791	寛政3年赤湯村本地開改水帳	R
1794	寛政6年松沢村本地開改水帳	S
1824	文政7年金沢村本地開田畑水帳	T
1824	文政7年菅野改革水帳（赤湯町史268頁）	U
1843	天保14年新田村塗反別名奇帳	V
1849	嘉永2年赤湯村本地開改水帳	W
	永代壳渡中田畑譲文之事	X
	御林集（日本林制史資料：赤湯町史345-346頁）	Y
	温泉記（市史資料集26号49頁）	Z
1874	明治7年地租改正 地価帳 土地台帳写（鍋田邑）	aa
1874～1893	明治7、8、26年字限図	ab
1876	明治9年新聞摘要（赤湯町史360頁）	ac
1938	東置賜郡史（昭和13・14年）	ad
1938	山形県地名録（昭和13年）	ae
1968	赤湯町史（昭和43年）	af
1973	沖鄉村史（昭和48年）	ag
1979	梨郷村史（昭和54年）	ah
1981	角川日本地名大辞典（昭和56年）	ai
	南陽市地名索引（安達）	aj
1990	南陽市史（平成2年）	ak
2010	南陽市島貫の歴史（平成22年）	al
2013	平成25年税台帳	am

表3 小字名・地名の出典

1. 赤湯 (1) 赤湯・金沢・松沢の小字名・地名

NO	地区名	字名・地名	読み	出典	備考
赤湯			アカユ		
1	赤湯	堺田	アカダ	R,W,ab,ad,ae,af,ai,ak,am	門塚との境にある田
2	赤湯	柿崎 (ad: 柿先)	カサキ	I,W,ab,ad,ae,af,ai,ak,am	カケ: 欠ける。垣根で囲んだ 柿の説あり
3	赤湯	森前	モリマエ	am	森の山の南
4	赤湯	森先	モリサキ	R,W,ab,ad,ae,af,ai,ak,am	森の山の西に広がる田
5	赤湯	森	モリ	I,R,W,ab,ad,ae,af,ai,ak,am	森の山 (現在は山は無い、 源泉がある)
6	赤湯	本町	モトマチ	W,ab,ad,ae,af,ai,ak,am	
7	赤湯	馬町北	ウママチタ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	馬市の開催地 (元は新町や 荒町: ラマチ)
8	赤湯	馬町南	ウママチミミ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	"
9	赤湯	横町	ヨコマチ	R,W,ab,ad,ae,af,ai,ak,am	
10	赤湯	西町	ニシマチ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	西に位置する町場
11	赤湯	の場	ノドバ	I,R,W,ab,ad,ae,af,ai,ak,am	武芸の練習場
12	赤湯	芳野前	ヨシノマエ	R,W,ab,ad,ae,af,ai,ak,am	
13	赤湯	芳野前南	ヨシノマエミミ	am	
14	赤湯	湯尻	ヨシリ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am,I,R	排污が流れる末端地か
15	赤湯	鳥帽子石	トリシタシ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	指定文化財鳥帽子石に由来
16	赤湯	上野山 (ab: 上之山)	ウエノヤマ (af: リノヤマ)	Lab,ab,af,ai,ak,am	上野山簡跡
17	赤湯	寺山	テラヤマ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	東正寺がある
18	赤湯	水溜	ミズタマリ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	東正寺北西の山合いの谷地
19	赤湯	新田前	シンデンマエ	ab,ad,af,ai,ak,am	開拓地名
20	赤湯	八幡沢	ハチマンザワ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	赤湯八幡宮がある
21	赤湯	新田	シンデン	ad,ae,af,ai,ak,am	開拓地名、主に寛永年間に 開拓された
22	赤湯	团子山	ダングンヤマ	ad,ae,af,ai,ak,am	山の形に由来か
23	赤湯	大沢	オオザワ	ad,ae,af,ai,ak,am	白竜湖に流れ込む大きな 沢、沢の出口が北町遺跡
24	赤湯	夷平 (I,R,W: 畏そか平)	イブダヒ	I,R,W,ad,af,ai,ak,am	終末期占墳群があったと伝 わる
25	赤湯	夷平道下	イブダヒミシタ	ad,ae,af,ai,ak,am	
26	赤湯	夷平山	イブダヒヤマ	ad,ae,af,ai,ak,am	終末期占墳群があったと云 わる
27	赤湯	沼端	ヌマガタ	ad,ae,af,ai,ak,am	白竜湖西岸、田の中に池塘 があった
28	赤湯	十文字南	ジユウモンジミミ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	赤湯一松沢間。十文字は社 より新しい用語
29	赤湯	十文字北	ジユウモンジキタ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am,T	
30	金沢	十文字北	ジユウモンジキタ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am,T	
31	赤湯	川原	カワハラ	ae,af,ai,am	館の山の西方、吉野川左岸 の川原
32	赤湯	西川原	ニシカワハラ	R,W,ab,ad,ae,af,ai,ak,am	二色根村内飛び地
33	赤湯	中川原	ナカカワハラ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	二色根村内飛び地
34	赤湯	中道	カミヂ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	森の山の東、道が谷谷地で 尽きる所
35	赤湯	川尻北	カワシタヒタ	ab,ad,ae,af,ak,am	道が屈き、本格的な谷地に なる地点
36	赤湯	川尻南	カワシタミミ	ab,ad,ae,af,ak,am	赤湯一松沢間、道が大谷地 で尽きる所
37	赤湯	川尻	カワシタ	am,ai,ae,I,R,W	
38	赤湯	川南	カワミミ	ai	
39	赤湯	川北	カワキタ	ai	
40	赤湯	沼尻	ヌマジリ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am,T	白竜湖から南東へ伸びる水 路の西岸
41	金沢	沼尻	ヌマジリ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am,T	
42	赤湯	沼尻東	ヌマジリヒガシ	ad,ae,af,ai,ak,am	白竜湖から南東へ伸びる水 路の東岸
43	赤湯	深山	シムサン	W,ab,ae,af,ai,ak,am	深山寺があった
44	赤湯	八幡坂	ハチマンザワ	ad,af,ak,am	赤湯八幡社の南側の谷
45	赤湯	下ドメキ	ドドメキ	I,R,W,ab,ad,ae,af,ai,ak,am	大沢の出口、水音が響く地

N O	地区名	字名・地名	読み	出典	備考
46	赤湯	ガムシ沼	ガムシマ	ad,ae,af,ai,ak,am	ガムシ:水生昆虫
47	赤湯	月ノ木前	ツキノヒ	ad,ae,af,ai,ak,am	島上坂へ登る途中の坂
48	赤湯	月ノ木山	ツキノヒマ	ad,ae,af,ai,ak,am	
49	赤湯	月ノ木	ツキノヒ	ae,ai	
50	赤湯	(つきの木在家)	ツキノヒヤ	D	月ノ木在家
51	赤湯	鳥喰	トリカミ	ad,ae,af,ai,ak,am	白竜湖東側の草地。小鳥が多く来る地
52	赤湯	鳥喰北	トリカミキタ	ad,ae,af,ai,ak,am	
53	赤湯	金沢堀西	カネザベホリシ	ad,ae,af,ai,ak,am	
54	金沢	錦織場	ムクボ	ad,ae,af,ai,ak,am	元火葬場
55	赤湯	沼北	ヌマヒタ	ad,ae,af,ai,ak,am	
56	赤湯	十分一前	ジユウアチヒ	ad,ae,af,ai,ak,am	白竜湖の北
57	赤湯	十分一山	ジユウアチヤマ	ad,ai,ak,am	十分一:鈴山に入る物資に十分の一の物品税を課した
58	赤湯	十分一	ジユウアチ	ae,af,ai,am	「」、山南西側の斜面
59	赤湯	中堀	ナカホリ	ad,ae,af,ai,ak,am	白竜湖北側
60	赤湯	中堀北	ナカホリヒタ	am	
61	赤湯	中堀南	ナカホリリミ	am	
62	赤湯	小柳田	コヤシダ	ad,ae,af,ai,ak,am	白竜湖北、十分一山裾
63	赤湯	玉坂	タマカ	ad,ae,af,ai,ak,am,R	玉坂鈴山
64	赤湯	玉坂山	タマカヤマ	ad,ae,af,ai,ak,am	
65	赤湯	鳥上	トリカケ	ad,ae,af,ai,ak,am	取扱と記した文書もある
66	赤湯	秋葉山	アキハサン	ad,ae,af,ai,ak,am	
67	赤湯	大沢山	オオザワヤマ	ad,ae,af,ai,ak,am	古墳群があったと伝わる
68	赤湯	元林山	モトハヤシヤマ	ad,ae,af,ai,ak,am	
69	赤湯	名子山	ナゴヤマ	ad,ae,af,ai,ak,am	
70	赤湯	狼ノ沢	オイゾワ	ad,af,ak,am	
71	赤湯	狼沢山	オイゾワヤマ (am: オカミ ミサワヤマ)	ae,ai,am	
72	赤湯	順礼坂山 (af: 順礼炭山)	ジユレイサカヤマ	ad,ae,af,ai,ak,am	
73	赤湯	土平山 (ae: 大平山)	ドハイマ	ad,af,ak,am,ae	
74	赤湯	扇平山	オオヒビヤマ	ad,ae,af,ai,ak,am	
75	赤湯	初森山 (af: 郡森山)	ハラヒロヤマ	ad,ae,af,ai,ak,am	
76	赤湯	草履掛山	グクリガケヤマ	ad,ae,af,ai,ak,am	
77	赤湯	龍石山	カゴシヤマ	ad,ae,af,ai,ak,am	
78	赤湯	焼山	ヤキヤマ	ad,ae,af,ai,ak,am	
79	赤湯	高ツムジ山	タカツムジヤマ	ad,ae,af,ai,ak,am	
80	赤湯	つきの木沢 (Y: 櫻ノ木沢)	ツキノヒツリ	I,Y	
81	赤湯	つきの木前	ツキノヒ	LR	
82	赤湯	けいわい坂 (Z: 形勢坂、化粧坂)	ケイハイカ	I.R,W,Z	地蔵清水の南側か
83	赤湯	谷内	タニナ	LR	
84	赤湯	へび沼	ヘビヌマ	LR,T	
85	赤湯	どす湯	ドスコ	LR	
86	赤湯	しみと (四味堂)	シミト	I,R,W	二色相に水堂 (タヨドウ) 有。
87	赤湯	志ミと	シミト	I	タヨドウ、上記と同じか
88	赤湯	清水崎	シミズサキ	LR	「」
89	赤湯	川原田	カワラタ	LR	
90	赤湯	清水堂	シミズドウ	LR	
91	赤湯	横町裏	ヨコチクラ	LR	
92	赤湯	とうきりはし (胴切橋、土切橋)	トウキリハシ	I,市史編集資料 41 号	長岡表町線と国道 113 の十字路付近
93	赤湯	長田	ナガタ	I	
94	赤湯	藤左衛門作	トケイエモンサ	I	
95	赤湯	草刈場	クサカツバ	I	
96	赤湯	大百刈田	オカヒカツタ	I	
97	赤湯	大百刈之内	オカヒカツタノウチ	I	
98	赤湯	小かた	コカタ	I	

NO	地区名	字名・地名	読み	出典	備考
99	赤湯	みたらせ川 (P: 新田前みたらせ川)	ミタセガワ	I	旧赤湯八幡社付近? 部手洗川
100	赤湯	成なし	ナナシ	R	三間通地区へ飛地か
101	赤湯	八幡堂	ハチマンドウ	R,W	
102	赤湯	鳥上坂	トリアゲザカ	R	取扱版と記した文書もある
103	赤湯	入かね下	イカネシタ	R	入金村は金沢村のこと
104	赤湯	たのぶ	タブ	R	
105	赤湯	筆原	ヒラ	R	鳥帽子山の西南
106	赤湯	十念坂	ジユニンザカ	R	民話では十年坂と記す
107	赤湯	馬場通	ハーバドウ	W	馬市に由来
108	赤湯	本町裏	モチマクラ	W	
109	赤湯	深山うら	シザンクラ	W	深山寺に由来
110	赤湯	松嶋田	マツシタ	T	
111	赤湯	水神前	スイジンマエ	T	
112	赤湯	田橋	タブリ	S	
113	赤湯	物見柳	モノミヤキ	S	物見
114	赤湯	閑昌	セイガタ	I	
115	赤湯	山畑	ヤハタ	I	
116	赤湯	吉野	ヨシノ	I	
117	赤湯	福てん	フテン	I	
118	赤湯	川原畠	カハラタ	I	
119	赤湯	とす森	トスモリ	I	
120	赤湯	源山内	ゲンサンイ?	I	内: 入り組んだ地形
121	赤湯	湯沢	ヨツヅ	明暦二年御狩場之図	
122	金沢	北浦 (ai: 北裏)	カウラ	ad,ae,af,ai,ak,am,T	
123	金沢	柳沢	カギサワ	ad,ae,af,ai,ak,am,T	
124	金沢	柳沢前	カギサワヘ	ad,ae,af,ai,ak,am,T	
125	金沢	万平	マツベイ	ad,ae,af,ai,ak,am,T	
126	金沢	万平山	マツベイマ	ad,ae,af,ai,ak,am	
127	金沢	金沢組中	カギサワクミチユ	ad,ae,af,ai,ak,am,T	
128	金沢	源藏	ゲンザウ	ad,ae,af,ai,ak,am,T	
129	金沢	入金	イガネ	ad,ae,af,ai,ak,am,T	金山関連地名
130	金沢	入金村 (煎金村)	イリガネムラ	M	
131	金沢	外ノ林	トハラシ (ad: トモ), am: トトハラシ	ad,ae,af,ai,ak,am,T	
132	金沢	天秤屋	テンビヤ	ad,ae,af,ai,ak,am,T	鶴山関連地名
133	金沢	白竜湖	ハツリココ	ae,af,ai,am	
134	金沢	上ノ原	カミハラ	ad,ae,af,ai,ak,am	
135	金沢	大小屋	オコヤ	ad,ae,af,ai,ak,am,T	鶴山関連地名、金山小屋か、或はコヤ: 荒野 (開拓免税地名) か
136	金沢	酒町前	サケマチヤ	ad,ae,af,ai,ak,am,T	
137	金沢	転石	コロビシ	ad,ae,af,ai,ak,am,T	鶴山関連地名
138	金沢	蓮沼	レンボ	ad,ae,af,ai,ak,am,T	池塘に由来
139	金沢	七両坂 (R.T: 七郎坂)	シリヨウザカ	ad,ae,af,ai,ak,am,T	北條郷鶴山史話に由来記載
140	金沢	七両坂前 (T: 七郎坂前)	シリヨウザカエ	ad,ae,af,ai,ak,am,T	
141	金沢	松林下	シラカシタ	ad,af,ak,am,ab	
142	金沢	松林道下	シラカシミチシタ (am: マツハヤシミチタ)	ae,af,ai,am	
143	金沢	山ノ上	ヤマカミ (ヤマカエ)	ad,ae,af,ai,ak,am	
144	金沢	上谷地	カミチホ	ak,af,ad,T	
145	金沢	仏沼	ブツヌマ (ad: ブチヌマ)	ad,ae,af,ai,ak,am,T	池塘に由来
146	金沢	柳山	カギヤマ	ad,af,ai,ak,am	
147	金沢	外ノ山	カミヤマ (ad: トノヤマ)	ad,ae,af,ai,ak,am	
148	金沢	平次林	ハジハヤシ	ad,ae,af,ai,ak,am	
149	金沢	金沢	カギザカ	ai	
150	金沢	七群坂	シナゲンザカ	U	七両坂のことか
151	金沢	赤坂	アカハカ	Y	

NO	地区名	字名・地名	読み	出典	備考
152	松沢	宮原前	ミヤハラマエ	ad,ae,af,ai,ak,am	
153	松沢	宮原	ミヤハラ	S	
154	松沢	宮前	ミヤマエ	ab	草刈八幡神社の前
155	松沢	段前	ダンマエ	ad,ae,af,ai,ak,am,R.S	墳(近世墓地)、墓地有
156	松沢	古沢	コザワ	ad,ae,af,ai,ak,am,S	
157	松沢	土石	ドシ	ad,ae,af,ai,ak,am,S	土石山の南
158	松沢	土石山	ドシヤマ	ad,ae,af,ai,ak,am	
159	松沢	山神前	ヤマカミマエ	ad,ae,af,ai,ak,am,S	山神社の南
160	松沢	赤石前	アカシマエ (am: アカシマ エ)	ad,ae,af,ai,ak,am,S	赤石山の南
161	松沢	松沢前	マツザワマエ	ad,ae,af,ai,ak,am,S	松沢山の南
162	松沢	松沢前山	マツザワマエヤマ	ak,af,ad,ae	
163	松沢	松沢山	マツザワヤマ	ai,am	
164	松沢	前坂	マエザカ	ad,ae,af,ai,ak,am,S	
165	松沢	田橋	タハシ	ak,ai,af,ad,ae	
166	松沢	前川原	マエガワラ	ad,af,ak,am,S	
167	松沢	塚田	ツカダ	ad,ae,af,ai,ak,am,S	
168	松沢	島山	シマヤマ	am	
169	松沢	沼南	ヌマミナミ	am	
170	松沢	沼東	ヌマヒガシ	am	
171	松沢	金沢前	カネザワマエ	am	
172	松沢	赤石山	アカシヤマ (am: アカシヤ マ)	ai,am	
173	松沢	松沢	マツザワ	am,ai,ae	
174	松沢	大平山	オオヒラヤマ	ai	
175	松沢	北浦	キタウラ	S,ai	
176	松沢	駿御所	スジノゴショ	U	市文化財
177	松沢	田所橋	タドコロハシ	U	
178	赤湯	新町	アラチ	享保の絵図	後に馬町に改称
179	赤湯	荒町	アラマチ	正保の絵図	"

1. 赤湯（2） 桶塚の小字名・地名

NO	地区名	字名・地名	読み	読み	出典	備考
1	桶塚	押出	オダシ	(am: オダシ)	ad,ae,af,ai,ak,am	洪水等の砂泥堆積地
2	桶塚	塚田	ヲタ		ad,ae,af,ai,ak,am	
3	桶塚	川原田	カワタ		ad,ae,af,ai,ak,am	
4	桶塚	渡田	ワタ		ad,ae,af,ai,ak,am	渡は赤湯のこと、鉄分の多い水が湧く田
5	桶塚	太子堂	タジドウ		ad,ae,af,ai,ak,am,ab	太子堂があったか
6	桶塚	上谷地	カミチ		ad,ae,af,ai,ak,am	
7	桶塚	下谷地	シモチ		ad,ae,af,ai,ak,am	吉野川左岸、大谷地内
8	桶塚	北谷地	キチ		ad,ae,af,ai,ak,am	中谷地の北
9	桶塚	中谷地	カチ		ad,ae,af,ai,ak,am	館の山の東の集落～田
10	桶塚	松木植	マツノバン	(マツバン)	ad,ae,af,ai,ak,am	壇：近世草地に多い
11	桶塚	松浦植	マツウラバン		ad,ae,af,ai,ak,am	壇：近世草地に多い
12	桶塚	船付	フナキ		ad,ae,af,ai,ak,am	谷地角の係留地か
13	桶塚	前田	ハタ		ad,ae,af,ai,ak,am	館の山の南裾
14	桶塚	辻ノ前	ツヅノハタ		ad,ae,af,ai,ak,am	館の山北東、集落の南側
15	桶塚	中島	カミダ		ad,ae,af,ai,ak,am	大谷地の起こし田の範囲
16	桶塚	境田	カタイ		ad,ae,af,ai,ak,am	赤湯との境
17	桶塚	蛇沼	ジツヌマ	(af: ヒビヌマ)	ad,ae,af,ai,ak,am,ab	赤湯境、沼があったか
18	桶塚	館ノ越	カニヨ		ab,ad,af,ai,ak,am	館の山の北裾
19	桶塚	館ノ山	カニヤマ		ad,af,ai,ak,am	館のあった山
20	桶塚	堀田	ホリタ		ad,ae,af,ai,ak,am,ab	館の山の西
21	桶塚	角田	カタ		ad,ae,af,ai,ak,am,ab	カタ（欠け田）：洪水で田が欠けた土地か
か	桶塚	李ノ木	スモキ		ad,ae,af,ai,ak,am,ab	梨は六師（アシ）のアの脱字、產銭に関わる職人）という場合もある。
23	桶塚	湯川原	カバラ		ad,ae,af,ai,ak,am,ab	千畠田堤があった
24	桶塚	山崎	ヤマキ		ab,ad,af,ak,am	長岡山北端の先
25	桶塚	橋本東	カミモヒガシ		ab	
26	桶塚	橋本	カミモト		ad,ae,af,ai,ak,am	
27	桶塚	石法花	イハギ		ad,ae,af,ai,ak,am,ab	六画輪があった。又は跡：右がごろごろした落差のある地
28	桶塚	川端	カバタ		ad,ae,af,ai,ak,am,ab	千刈田堤の北
29	桶塚	川尻	カワシリ		ad,ae,af,ai,ak,am	松沢の手前
30	桶塚	中川原	カカハラ		ad,ae,af,ai,ak,am	塙田の東、起こし田
31	桶塚	江口	エグチ		ad,ae,af,ai,ak,am	屋代村境、大谷地
32	桶塚	砂田	カミダ		ad,ab,ae,af,ai,ak	洪水堆積の砂地
33	桶塚	大野	オノ		ad,ae,af,ai,ak,am	金沢地内への飛び地
34	桶塚	左沢	ザツ	(am: ヒダザツ)	ad,ae,af,ai,ak,am	金沢地内への飛び地
35	桶塚	松沢前	マツザワマエ		ad,ae,af,ai,ak,am	
36	桶塚	大繩場	オオガタ		ad,ae,af,ai,ak,am	松沢の南、屋代村境
37	桶塚	大繩場ノ内大柳	オオガタノウチヤシ		ad,ae,af,ai,ak,am	
38	桶塚	大繩場ノ内升形	オオガタノウチヤマカタ		ad,ae,af,ai,ak,am	
39	桶塚	弗沼 (ab: 仏沼)	ブヌマ	(am: トヌマ)	ad,ae,af,ai,ak,am	路の御所の西
40	桶塚	沼尻	ヌマシリ		ad,ae,af,ai,ak,am	
41	桶塚	十文字	ジユウモンジ		ad,ae,af,ai,ak,am	仏沼の西
42	桶塚	上谷地	カミチ		ad,af,ak,am	
43	桶塚	湯境	ヨダシ		ad,ae,af,ai,ak	赤湯境の脱字か
44	桶塚	前坂	フジカ		am	
45	桶塚	新開	シンカイ		ae,ai	
46	桶塚	二タロ	ニタロ		ac	
47	桶塚	大曲	オオカク		ac	
48	桶塚	(丹後在家)	タコサカ	竹	D	丹後在家
49	桶塚	(豊後在家)	アコサカ	竹	D	豊後在家
50	桶塚	(高閑在家)	カセサカ	竹	D	高閑在家
51	桶塚	(沼さハ在家)	ヌマサハ	竹	D	沼沢在家

1. 赤湯（3）長岡の小字名・地名

N O	地区名	字名・地名	読み	出典	備考
長岡		ナガオカ	ae,ai		
1	長岡	下谷地北	シタチタ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	吉野川西岸
2	長岡	下谷地南	シモチタミ	ab,af,am	吉野川西岸
3	長岡	下谷地	シモチ (ab: シタチ)	ad,ae,ai,ak,am	
4	長岡	前原北	マエハラチタ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	吉野川西岸の旧河道、石河原有
5	長岡	前原南	マエハラチミ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	"
6	長岡	東田中	ヒガシタナカ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	長岡山の東、街道東の集落
7	長岡	小生堂	コセドウ (af: コヨウトウ, am: コイドウ)	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	越王堂があったことに由来
8	長岡	金屋神	カニヤシミ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	かなや神：産鉄の神
9	長岡	稻荷森	イナモリ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	古くは神社を祀と言った又はドーム型の山を祀ともいう。稻荷神社に由来。稻荷森古墳。
10	長岡	きつね在け	キツネイケ	C	稻荷森は通称「きつね山」
11	長岡	西田中	ニシタナカ (ニシダナカ)	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	長岡山東の集落地
12	長岡	西田中西	ニシタナガシ (ニシダナカンシ)	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	長岡山の南半地
13	長岡	西田中南	ニシタナガミ (ニシダナカミ)	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	南森北東の集落地
14	長岡	清水尻	シミズジリ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	南森南東の池地
15	長岡	南森	ミミモリ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	南森。古くは神社をモリと言った又はドーム型の山をモリともいう。
16	長岡	南森西	ミミモリシ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	南森の西
17	長岡	西田	ニシタ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	南森の北西
18	長岡	入尾免	イリオヌシ (am: イヌシ)	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	井料免：用水管理用の共同水田、免田
19	長岡	開田	カヘン (ai,ae: カイタ, am: ヒラタ)	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	開拓地名
20	長岡	大巻	オオサキ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	長岡山麓開拓の牧か、旧河道が曲がる地か
21	長岡	堂の前 (ab: 堂之前)	ドウノエ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	南森の東、丘陵と自然堤防に挟まれた低地
22	長岡	後家谷地	ゴケヤチ	af	
23	長岡	柳田	ヤナギダ	ab,ad,af,ak,am	柳の木
24	長岡	五百刈	ゴヒヤカギリ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	刈は中世貢上納に係る水田面積
25	長岡	長苗代北	ナガナワシロタ	ab	丘陵と自然堤防に挟まれた低地
26	長岡	南長苗代	ミナガナワシロ	ab	"
27	長岡	長苗代	ナガナワシロ	ad,ae,af,ai,ak,am	
28	長岡	境田	カカイタ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	鴨塚との境
29	長岡	北田	キタタ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	集落のある西田中の北
30	長岡	向原	ムカイハラ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	吉野川西岸
31	長岡	中野坪	ナカノアザ	ab,af	桑里町連地名か
32	長岡	四釜	シカマ	ab,af	「シカ」は「干涸、砂洲」の意味。「マ」は場所。
33	長岡	砂原	スナハラ	ab,af	洪水による砂の堆積地
34	長岡	井戸尻	イドジリ	ab,af	低湿地

1. 赤湯 (4) 駒柳の小字名・地名

NO	地区名	字名・地名	読み	出典	備考
	駒柳 (真板柳)		ツバキヤシ	ae,ai	駒板に由来と伝承。真名井(まない)の可能性? 鍋田No91 参照
1	駒柳	水下	ミズシモ	J,ab,ad,ae,af,ai,ak,am	集落の南、駒柳御番所があった。 水路下流。
2	駒柳	東畠	ヒガシシタ	J,ab,ad,ae,af,ai,ak,am	街道の東、集落地
3	駒柳	堀田	ホリタ	J,ab,ad,ae,af,ai,ak,am	館跡
4	駒柳	水上	ミズノミ	J,ab,ad,ae,af,ai,ak,am	水路上流。熊野神社有り
5	駒柳	中丸 (C: なかまる)	ナガマル	C,J,ab,ad,ae,af,ai,ak,am	南森の南。中庶郷か
6	駒柳	六百菊	ロクヒャクヤク	J,ab,ad,ae,af,ai,ak,am	村は中世直上納に係る水田面積
7	駒柳	才藤	サイフジ (ai,ae: サイド り, am: シトウ)	J,ab,ad,ae,af,ai,ak,am	さい藤在家に由来か
8	駒柳	さい藤在け (af: 斎藤在家)	サイド カザ ヲ	C,J, aff(302 頁)	さい藤在家
9	駒柳	斎藤屋敷	サイドヤシキ	J	さい藤在家関連か
10	駒柳	吉見分	ヨシミツカ	J,ab,ad,ae,af,ai,ak,am	吉野川西岸。江戸時代に吉見次右門の開拓
11	駒柳	南谷地 (J: 南屋地)	ミミヤチ	J,ab,ae,af,ai,am	吉野川が西に曲がる所の右岸
12	駒柳	上谷地	ミヤチ	J,ad,ae,af,ai,ak,am	集落北東側の低地
13	駒柳	下谷地	シヤチ	J,ab,ad,ae,af,ai,ak,am	集落南側の低地
14	駒柳	大谷地	オヤチ	ab	
15	駒柳	早畠田	ハヤタ	J,ab,ad,ae,af,ai,ak,am	吉野川北岸
16	駒柳	柳田	ヤシダ	J,ab,ad,ae,af,ai,ak,am	集落の北
17	駒柳	右京	ヨウキ	J,ab,ad,ae,af,ai,ak,am	深沼村境、右京在家関連
18	駒柳	うきやう在家 (J,ak: 右京在家)	ウキヨウザ ウ	C,J,ak (湯目文書)	なかまる(中庶)のうち、うきやう在家
19	駒柳	五反歩	ゴテンブ	J,ab,ad,ae,af,ai,ak,am	吉野川東岸
20	駒柳	白野	シロ	af	
21	駒柳	宿ノ町	サノマチ	ak	
22	駒柳	四百野	シヒヨウ (ヨンヒヨウ)	J,ab,am	館塀の南側。橋があったか
23	駒柳	板橋	ハタケ	J,ab,af	館跡東側の低地
24	駒柳 (鍋田)	(みよう在け)	ミヨウザ ウ	C	名田 (ミヨウザ) の名残。平安中期から室町末まで庄園・国衙領の取得の基礎単位となつた田地のこと。鍋田No115
25	駒柳	水無	ミズナシ	J	
26	駒柳	的場	アハル	J, aff(302 頁)	武芸の練習場
27	駒柳	小屋	コテ	J	開拓地名 (荒野) か
28	駒柳	堀	ホリ	J	
29	駒柳	ほりはた	ホリハタ	J	
30	駒柳	堀島	ホリハタ	J	
31	駒柳	岡 (鬼) 河原橋	カガ リラバシ	J	
32	駒柳	熊野宮	クマノミコ	J	熊野神社、字水上か
33	駒柳	かなうつき	カカウツキ	J	金空木 (植物) ?
34	駒柳	河はた	カハタ	J	川の端
35	駒柳	川島	カハタ	J	
36	駒柳	こいは (af: こいそ)	コイハ	J, aff(302 頁)	
37	駒柳	堀小屋	ホリコヤ	J	開拓地名 (荒野) か
38	駒柳	(谷七在家)	エビシザ ウ	J	谷七在家
39	駒柳	南屋地	ミミヤチ	J	南谷地
40	駒柳	(吉長在家) (af: 吉永在家)	ヨシナガザ ウ	J, aff(302 頁)	吉長在家
41	駒柳	中やしき	ナカヤシキ	L	中屋敷
42	駒柳	火行段	ヒヨウダン	L	熊野十二所権現の一つ飛行夜叉を祀ったか。鍋田No122 関連
43	駒柳	(四釜在家)	シバタザ ウ	D	四釜在家

1. 赤湯（5）三間通・上野、他の小字名・地名

NO	地区名	字名・地名	読み	出典	備考
	三間通		ミアドオリ (ae: ミアドリ)	ab.ai	道幅や三軒の屋敷が山來の説有り。発音を重視すれば川や水の神（ミツハシミツカミ）を祀るか、或は水路に挟まれた場所か。
1	三間通	蕨田	ワガタケ	ab,ae,af,ai,am	吉野川の西。蕨田在家に間連か
2	三間通	西藏田	ニツワタ	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	ワガタ : 川に挟まれた地
3	三間通	東蕨田	ヒガワタ	ab,ad,af,ai,ak,am	吉野川の西。櫛塚・二色根境
4	三間通	中蕨田	ナカワタ	ab,ad,af,ak,am	
5	三間通	西六角	ニシワタク	ab,ae,ad,af,ai,ak	六面堂に由来か
6	三間通	東六角	ヒガシワタク	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	"
7	三間通	中六角	ナカワタク	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	"
8	三間通	六角西	ワタクニシ	ab,ae,ad,af,ai,am	"
9	三間通	西大田（西太田）	ニオオタ	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	矢ノ日町の北
10	三間通	稻荷	イカリ	ab,ae,ad,af,ai,am	稻荷集落。稻荷神社有り
11	三間通	東稻荷	ヒガシイカリ	ab,ae,ad,af,ai,ak	稻荷集落の東
12	三間通	西稻荷	ニシイカリ	ab,ab,ad,af,ai,ak,am	稻荷集落の南西
13	三間通	壇之越	ダンコシ（ダンノオチ）	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	壇を越えた所。壇の周り
14	三間通	極越	ヒゴシ（am: トイゴシ）	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	水路地名。水路が三本流れ。諏訪神社有り。
15	三間通	地蔵田	ジザケン（am: テザケン）	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	奉納田や寄進された免租の田。地蔵講関係
16	三間通	唐越	カヨコ	ae,ad,af,ai,ak,am	越王神社地名か？ 荷を空にして越す地の意か？
17	三間通	成梨	ナリシ	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	ナ : 頗斜地。吉野川右岸の自然堤防の端
18	三間通	西成梨	ニナリナシ	ab,ad,af,ai,ak	"
19	三間通	円蔵西	エンゾウニシ	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	蛭沢神社の周辺
20	三間通	円蔵前	エンゾウマエ	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	"
21	三間通	円蔵脇	エンゾウキ	ab,ae,ai,am	" 及び中洲
22	三間通	檜原	ヒガハラ（am: エハラ）	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	東唐越館の東
23	三間通	北檜原	キタヒガハラ（am: キタエハラ）	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	吉野川右岸。吉野川と堰の分流地
24	三間通	東唐越	ヒガタカラコシ	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	東唐越館
25	三間通	中唐越	ナカラコシ	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	
26	三間通	西唐越	ジカラコシ	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	若狭郷屋との境
27	三間通	閑口前	セキグチマエ	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	若狭郷屋・宮内との境
28	三間通	閑口後	セキグチメト	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	宮内との境
29	三間通	長田	ナガタ	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	南北に長い田
30	三間通	堰欠	セキガタ	ab	洪水で堰が欠けた地
31	三間通	堰沢	セキツツ	ab,ai	
32	三間通	西野々	ゴリゴリ	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	三間通集落西の旧河道の西。吉野川左岸
33	三間通	後畑	ゴハタ（ai,ae: ゴハタ, am: アハタ）	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	古くからの三間通集落
34	三間通	横沢	ヨザワ	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	二色根根小屋の西
35	三間通	横沢裏	ヨコザワウラ	ab,ad,af,ai,ak,am	
36	三間通	水上	ミズカミ	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	横沢の上流。堤有り
37	三間通	館ノ越	タケノコシ	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	二色根館の西の山麓。館を越したところ、或は館の腰まわりの地
38	三間通	雷前	ライイエ（am: カミナリエ）	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	雷神社。雨乞いの神社。地名は墓地
39	三間通	八幡前	ハチマンエ	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	八幡神社有り。
40	三間通	八幡後	ハチマンギト	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	八幡神社の北
41	三間通	川原	カワラ	ab,ae,ad,af,ai,ak	吉野川左岸、氾濫域
42	三間通	北川原	キタカワラ	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	三間通北端の川原

N O	地区名	字名・地名	読み	出典	備考
43	三間通	西川原	ニシカハラ	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	吉野川左岸、段丘
44	三間通	平蔵壇	ヒライ ウツダ	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	吉野川左岸、段丘末端。壇は近世墓域か
45	三間通	上野前	ウノケン	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	段丘、上野地区的南
46	三間通	上野山	ウノヤマ	ab,ai	
47	三間通	西上野	ニシウノ	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	段丘
48	三間通	中上野	ウツノウノ	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	段丘
49	三間通	北山	キタヤマ	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	三間通地区的北端、段丘
50	三間通	一丁場	イチヂウガハ	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	近世初期の開拓地
51	三間通	二丁場	ニチヂウガハ	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	"
52	三間通	三丁場	サンヂウガハ	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	"
53	三間通	糲田	モダ	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	モチ：凹地
54	三間通	間々上（間々ノ上）	ママノウエ	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	ママ：急な崖・斜面の自然地形。屋根のこと。
55	三間通	館ノ山（館山）	タテノヤマ	ab,ad,af,ai,ak,am	二色相顔
56	三間通	五百菊	ゴヒュウガ	ab,ae,ad,af,ai,ak	菊は中世年貢納に係る水田面積
57	三間通	中坪	ナカツモ ^(am: ナカノツモ)	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	中央が窪む地形？条里地名？
58	三間通	傾城橋	ケイジヨウハシ ^(am: ケイセイハシ)	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	古くからの三間通集落。二色根の茶屋の美女に会うため渡る橋
59	三間通	桑旗	カハタ ^(ad: クハタ)	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	河端：川の側
60	三間通	桑旗前	カハタエ ^(ad: クハタエ)	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	吉野川左岸、氾濫域
61	三間通	桑旗後	カハタアト ^(am: クハタアト)	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	桑旗集落の北
62	三間通	宮内前	ミウチマ	ab,ad,af,ai,ak,am	宮内地内の飛び地
63	三間通	西山	ニシヤマ	ab,ae,af,ai,am	西上野の北、堤有り。
64	三間通	北西山	キタニシヤマ	ab	
65	三間通	山居沢	サンキヨザワ	ae	
66	三間通	諏訪西	スルニシ	am	
67	蒲生田（三間通）	上野	リノ ^(af,ad: リノウ)	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	リノ：栗野郷の名残か
68	蒲生田（三間通）	上野東	リノヒガシ	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	
69	蒲生田（三間通）	沢田	リワダ	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	
70	蒲生田（三間通）	ママ下	ママシタ ^(am: マミシタ)	ae,ad,af,ak,am	
71	蒲生田（三間通）	寺山	テラヤマ	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	
72	蒲生田（三間通）	寺ノ前（寺野前）	テラノマ	ab,ae,ad,af,ai,ak,am	
73	蒲生田	蒲生田山	カモタヤマ	ab,ad,af,ai,ak,am	
74	蒲生田	山居沢山	サンキヨザワヤマ	ab,ad,af,ai,ak,am	
75	蒲生田	山居原	サンキヨハラ	ab,ad,af,ai,ak,am	
76	蒲生田	内原	カハラ	ab,ad,af,ai,ak,am	内：入り組んだ地形
77	蒲生田	ウルイ沢（雨澤沢）	ウルイワ ^(ウルイワリ)	ab,ad,af,ai,ak,am	蒲生田山古墳群
78	蒲生田	ウルイ沢山	ウルイワリヤマ	ab,ad,af,ai,ak,am	
79	蒲生田	北野沢	キタノザワ	ab,ad,af,ai,ak,am	
80	蒲生田	北ノ沢山（北野沢山）	キタノワツヤマ	ab,ad,af,ai,ak,am	
81	蒲生田	蒲生田	カモタ ^(カモタ)	ai	
82	上野	狸沢山	ヌミザワヤマ	am	
83	上野	上野中	リノカ	am	
84	上野	上野西	リノニシ	am	
85	中央東	永田	ナガタ	am	平成の地籍調査事業で改名
86	三間通	わらび田在家	リビダサ	D	森田在家

1. 赤湯 (6) 二色根の小字名・地名

NO	地区名	字名(地名)	読み	出典	備考
二色根			ニトヨ(ニトヨ)	ae	丹、泰土に係る地名
1	二色根	上氷堂	カミシドウ	ab,ae,af,ai,am	志味堂(四味堂)に由来。新御堂の可能性も
2	二色根	下氷堂	シシドウ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	"
3	二色根	下川原	シカワ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	古堤の南・南東、旧氾濫域
4	二色根	前川原	エカワ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	吉野川が貫流。小字成立後に河道になった。
5	二色根	中川原	カカワ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	"
6	二色根	堤端	ツミダ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	古堤、旧氾濫域
7	二色根	石田	イシダ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	石の多い地、災害地名
8	二色根	上起田	イシヨシダ	ab,ad,ae,af,ai,ak	吉野川右岸、自然堤防
9	二色根	中起田	カカヨシダ	ab,ad,af,ak	"
10	二色根	下起田	シヨシダ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	"
11	二色根	起田	エカタ	am	
12	二色根	田中堰	タカセキ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	赤湯への水路起点
13	二色根	大日前	タニチマ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	大日堂の前(南)。堰有り。
14	二色根	山崎	ヤマザキ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	鳥帽子山西端の先
15	二色根	湯坂	ヨウザ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	鳥帽子山上の西坂
16	二色根	水溜	ミズタツリ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	湧水地
17	二色根	館ノ内	ケノウチ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	薬師寺有り。二色根館
18	二色根	大門	タビ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	薬師寺夢道
19	二色根	大日浦 (ad,aa: 大日裏)	タニチマ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	大日堂有り。館跡となる旧河道有り
20	二色根	錦打	ヒナチ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	ヒタ : 山麓の湧水地。ナチ : 入り組んだ地形
21	二色根	的場	ヒトハ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	二色根館間連。武芸の練習場
22	二色根	鍛治屋敷	カジヤシキ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	鍛冶職人の居住地
23	二色根	根小屋	ネコヤ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	二色根館のネコヤ (非戦闘時の集落・家臣団屋敷跡等)
24	二色根	根小屋裏 (am,af,ad,ae: 根小屋浦)	ネコヤウラ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	ネコヤの裏
25	二色根	根小屋前	ネコヤマ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	ネコヤの南端
26	二色根	壁ノ内	カマヅチ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	壁は中世城館の施設?
27	二色根	南京	ナンキョウ (Y: ナンキン、 am: ナンキ)	ae,ad,af,ai,ak,am	
28	二色根	南京觀音堂	ナンキョウカソントウ	ae,ad,af,ai,ak,am	(ad,am: ナンキンカソントウ)
29	二色根	南京觀音林 (af: 南京觀 音堂林)	ナンキョウカソノハ	ae,ad,af,ai,ak,am	ヤシ (ad,am: ナンキンカソノハ ヤシ)
30	二色根	薬師山	ヤシヤマ	ae,ad,af,ai,ak,am	
31	二色根	中ノ山	カナヤマ	ae,ad,af,ai,ak,am	
32	二色根	湯沢	ヨウザ	ae,ad,af,ai,ak,am	
33	二色根	諏訪前	スワマ	ae,ad,af,ai,ak,am	諏訪神社の北
34	二色根	大巻	オマツ	ae,ad,af,ai,ak,am	二色根館間連、馬の飼育場
35	二色根	東面田	ヒガシモダ	ae,ad,af,ai,ak,am	西面田の東。免田
36	二色根	西面田	ヒガモダ	ae,ad,af,ai,ak,am	吉野川右岸(西)の免田
37	二色根	面田	モダ	am	免田
38	二色根	砂田	ミダ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	吉野川右岸、砂の堆積地、災害地名
39	二色根	腰巡	シカツリ	ad,ae,af,ai,ak	起田に接する。微高地を巡る地
40	二色根	前田	エダ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	根小屋の前(南)の田
41	二色根	浦山	カラヤマ	ae,ad,af,ai,ak,am	
42	二色根	シンタラ	シタラ	Y	

1. 赤湯 (7) 大橋の小字名・地名

NO	地区名	字名・地名	読み	出典	備考
大橋			オハラ	ab,ae,ai	大は美称。橋或は端か
1	大橋	大橋本	オハラモト	ae,ak,am	吉野川の北岸。街道渡河地
2	大橋	谷地端	ヤカニタ	ab,ad,ae,af,ai,ak	谷地の端。三ツ沼の西
3	大橋	谷地	ヤカニ	am	
4	大橋	熊屋敷	ケヤキ	ab,am	ヲ:奥また所。集落南端
5	大橋	北熊屋敷	キヤクヤキ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	"
6	大橋	南熊屋敷	ミヤクヤキ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	"
7	大橋	御殿跡	ゴテンシタ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	御殿跡。近世鷹狩時の御休場に利用
8	大橋	極脇	トヨワキ (am: トイワキ)	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	屋代川に水路が合流する地
9	大橋	館ノ内	タケノウチ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	大橋城本丸
10	大橋	北門口	キタゲンコ	ab,ad,ae,af,ag,ai,ak,am	大橋城北門口、北は湿地
11	大橋	北	タカ	ab,ad,ae,af,ak,am	吉野川・屋代川合流地西の自然堤防
12	大橋	北寺ノ内	キホラノウチ	ab,ad,ae,af,ag,ai,ak,am	元々瑞光寺があった地
13	大橋	南寺ノ内	ミミラノウチ	ab,ad,ae,af,ag,ai,ak,am	"
14	大橋	町浦	マチラ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	街道西側の集落、蕨内神社有り
15	大橋	上宿浦	カミジユカラ (カミヤドウラ)	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	吉野川南岸。宿(大橋宿)の裏
16	大橋	中宿浦	カミジユカラ (カミヤドウラ)	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	棒川の東。宿(大橋宿)の裏
17	大橋	下宿浦	シモジユカラ (シモヤドウラ)	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	棒川の東、中宿浦の南。宿(大橋宿)の裏
18	大橋	中千代田	チカヨダ	am	
19	大橋	竹原	タケラ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	跡原か? 現在瑞光寺有り。中を住居河道が流れる。
20	大橋	堂の浦	ドウノウラ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	熊屋敷の西
21	大橋	北番上	キタバンショウ (am: キタバンカミ)	ab,ad,ae,af,ag,ai,ak,am	番匠は工人(城館等を造るため招いた工人)に土地を与えて優遇することがあった。吉野川と棒川合流地の南北
22	大橋	東番上	ヒガシバンショウ	ab,ad,ae,af,ag,ai,ak	" 棒川の西
23	大橋	西番上	ニガシバンショウ (am: ニガシバンカミ)	ab,ad,ae,af,ag,ai,ak,am	" 吉野川の南
24	大橋	東三ツ沼	ヒガシミツマ	ab,ad,ae,af,ai,ak	地区的南東角、沼があったか
25	大橋	西三ツ沼	ニガシミツマ	ab,ad,ae,af,ai,ak	地区的南東、沼があったか
26	大橋	北三ツ沼	キタミツマ	ab,ad,ae,af,ai,ak	地区的北端、沼があったか
27	大橋	沢田	ツツダ	ab,ad,ae,af,ag,ai,ak,am	御殿跡の西。北に堀となる旧河道有り
28	大橋	万助屋敷	マンスケヤシ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	御殿跡の東、北に旧河道有り。自然堤防上に御跡か
29	大橋	東川田	ヒガシカワタ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	吉野川旧河道と屋代川合流地點
30	大橋	西川田	ニシカワタ	ab,ad,ae,af,ai,ak	本丸の東の自然堤防
31	大橋	油小林 (D:あふらこはし)	アブラコバヤシ	D,ab,ad,ae,af,ai,ak,am	吉野川旧河道右岸の自然堤防。油小林在家があったか?
32	大橋	(あふらこばやしと申候在家)	アブラコバヤシ	ak(湯目文書)	天正12年(1584)大橋古館跡が明係か
33	大橋	安塚	ヤセツカ (am: ヤススカ)	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	棒川の西。
34	大橋	九反	ケヌ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	
35	大橋	南九反	ミミクタ	ab,ad,ae,af,ai,ak,am	
36	大橋	下須川	ケスカワ (ai,ae: ケスカ)	ad,ae,af,ai	
37	大橋	前橋	フロウ	ad,ae,af,ai	

NO	地区名	字名・地名	読み	出典	備考
38	大橋	上三本柳	カミサンボ ^{シキ}	ad,ae,af,ag,ai,am	夏刈・石岡に跨る飛び地
39	大橋	下三本柳	シモサンボ ^{シキ}	ad,ae,af,ag,ai	
40	大橋	神上	カミジョウ	ad,ae,af,ai,ak	夏刈への飛び地
41	大橋	後案	ゴアツ	ad,ae,af,ai,ak	石岡への飛び地
42	大橋	吉野川上	ヨシノガ ^{ワカミ}	ak,am	鍋田・田中への飛び地
43	大橋	鍛治屋敷	カジヤキ	ab,ad,ae,af,ag,ai,am	鍛冶職人がいたか。集落から最も遠い位置にあたる
44	大橋	地藏浦東	ジザウカラヒガ ^シ	ab,am	地蔵裏
45	大橋	地藏浦西	ジザウカラニシ	ab,am	"
46	大橋	地藏浦	ジザウカラ	am	"
47	大橋	番所前	バンショフ	am	大橋御番所
48	大橋	稻荷前	イナリエ	am	
49	大橋	南経塚	ミナミキヨウザ ^カ	am	
50	大橋	橋本	ハシモト	am	
51	大橋	西新屋敷	ニシシンヤキ	am	
52	大橋	(左衛門四郎在家)	ヨエモンシロウ ^ウ 竹	ak(湯目文書)	明応2年(1493)
53	大橋	(とう中在家)	トウナガ ^ウ 竹	ak(湯目文書)	天文3年(1534)

1. 赤湯 (8) その他の地名等

NO	地区名	地名	読み	出典	備考
1	金沢	入金村(煎金村)	イカ ^{ハラ}	市史編集資料第26集P 34	大沼(白竜湖)の東山根を入金村と云う
2	金沢	堅刈	カタハリ	市史中巻P383 北条郷館山史話P16	「樹齋建議」の一節に「金沢村堅刈、金山也。」鳥上坂近くの地名。鎌山用語で岩盤の堅いところ。
3	赤湯	出町	デマチ	享保年間絵図	享保年間の絵図に見える。赤湯の集落の木戸外にできた町の名。結城豊太郎記念館付近から南側
4	赤湯	荒町(新町)	アラマチ	正保~享保年間の絵図	後に馬町に変化した。中世「アラマチ」は、寺社を背景にした商取引が行われる町の意味
5	—	西行川	サヰ ^{ヨウガ} リ	米沢地名選(文化元年1804) 吉野川を西行が沐浴したことにちなんで西行川とも言うとある。	吉野川を西行川とも言うとある。
6	—	立谷川	タチガ ^リ	明治25年赤湯温泉誌	吉野川を昔立谷川と称す。俗に逆サ川という
7	—	逆川(逆さ川)	サカガ ^リ	明治25年赤湯温泉誌	吉野川。米沢盆地で唯一南流するため
8	—	組矢川	クミヤガ ^リ	赤湯町史	三間通付近の吉野川。安部貞伝によると、矢川の転化だろ。
9	—	崩川	クルヤガ ^リ	三間通区史	郡衙関連地名。赤湯以北の吉野川(沖郷に流れる)という。
10	—	中野川	ナガガ ^リ	大正年間地図、謎解き三間通 散歩第2号	吉野川の赤湯部分(宮内閑口~最上川合流)を中野川という。かつて崩川の主流であったとみられる。
11	三間通	横沢川	ヨコザワガ ^リ	三間通区史	山居沢方面から流れれる川
12	大橋	番所	バンショ	赤湯町史	大橋館付近
13	大橋	力ヶ屋敷	カゲヤキ	赤湯町史	大橋館付近
14	金沢	泣坂	ナガサカ	北條郷館山史話	七面坂の手前。重い鉱石や物資運搬で泣かされる坂
15	金沢	薄雲坂	オノザカ	北條郷館山史話	泣坂と同じ道。遊女薄雲に由来

2. 宮内（1）宮内の小字名・地名

NO	地区名	字名・地名	読み	出典	備考
宮内			ミウチ	ae,ai	
1	宮内	閑口	セキグチ	ab,ad,ae,ai,ak,am	沖郷に流れる吉野川本流と赤湯に流れる派流の分岐地であった。天正年間の大水増で吉野川は赤湯へ流れようになった。
2	宮内	渴街道	カトウ	ab,ad,ae,ai,ak,am	赤湯に通じる街道の意
3	宮内	大曲	オカガリ	ab,ad,ae,ai,ak,am	河川（地形）が曲がったところ。
4	宮内	久根崎	クネザキ (ad,ai: クネキ)	ab,ad,ae,ai,ak,am	曲（ク）か。又はカ地が隆起して通過を妨げている所
5	宮内	馬場	ハバ	ab,ad,ae,ai,ak,am	騎馬の修練場
6	宮内	桜田	サクラダ	ab,ad,ae,ai,ak,am	サウ：低湿地地名、狭い所。
7	宮内	八幡田	ハチマンデン	ab,ad,ae,ai,ak,am	神社の仮籠の田か
8	宮内	砂子田	サゴタ (ai: サナコタ)	ab,ad,ae,ai,ak,am	砂のある所。砂地
9	宮内	三番繩	サンボウ (ae: ハンボウ、ad: サンボウ、am: サントンボウ)	ab,ad,ae,ai,ak,am	ワウ：畦道。開墾の始まりの繩。
10	宮内	斎藤	サイトウ	ab,ad,ae,ai,ak,am	人名か？ サイド：寛土（矩形で村境に祭る神のある所）や狭土（狭い土地）の可能性も。眞跡有り。
11	宮内	中坪（中ノ坪、中ノ坪）	カノボウ	ab,ad,ae,ai,ak,am	条里地名か
12	宮内	穴田	アメダ	ab,ad,ae,ai,ak,am	窪地
13	宮内	黒木	カキ	ab,ad,ae,ai,ak,am	カ：小高い所。土地の浸食・崩壊地名
14	宮内	一本杉	イチボンシラ	ab,ad,ae,ai,ak,am	吉野川氾濫原
15	宮内	川原田	カワラダ	ab,ad,ae,ai,ak,am	吉野川、氾濫原
16	宮内	上野原	カミノホラ	ab,ad,ae,ai,ak,am	内原段丘、近世初期の開拓地
17	宮内	内原	ウチハラ	ab,ad,ae,ai,ak,am	内原段丘、堤・集落有り
18	宮内	源兵衛平	ゲンペイエイ平	ab,ad,ae,ai,ak,am	平は段丘上の平地（地すべりで形成される場合がある）
19	宮内	源兵衛山	ゲンペイイマ	ae,ai,ak,am	
20	宮内	源兵衛平山	ゲンペイイマヤマ	ad,am	鶴山跡
宮内	丸山下	マルヤシタ	ab,ad,ae,ai,ak,am	形がドーム状の山は東隣、源兵衛平三に見られる	
21	宮内	中向山	カムヒヤマ	ab,ad,ae,ai,ak,am	向山公園、丸山館
22	宮内	南沢	ミミザワ	ab,ad,ae,ai,ak,am	官代林の南
23	宮内	官代林	カンダイハヤシ (ai: カンタ・ハヤシ)	ab,ad,ae,ai,ak,am	学頭川原の東の川向いの山地。（鳥浦津焼きの粘土や蔵土壁用白粘土を採取したといいう）
24	宮内	学頭川原	ガクトウカラワ (am: ガクドカラワ)	ab,ad,ae,ai,ak,am	熊野神社の学頭に因連
25	宮内	学頭	ガクトウ座	ab,am	熊野神社の学頭に因連
26	宮内	塔ノ越	トワノヨリ	ab,ad,ae,ai,ak,am	
27	宮内	尾島（尾嶋）	オジマ	ab,ad,ae,ai,ak,am	
28	宮内	尻無沢	シタナザワ	ad,ae,ai,ak,am	どこが終わりかわからない沢
29	宮内	清水	シズ	ab,ad,ae,ai,ak,am	
30	宮内	砂押	メオシ	ab,ad,ae,ai,ak,am	洪水による砂の堆積地
31	宮内	上川原	カミカラ	ab,ad,ae,ai,ak,am	吉野川と河川敷き
32	宮内	中川原	カミカラ	ab,ad,ae,ai,ak,am	"
33	宮内	下川原	シモカラ	ab,ad,ae,ai,ak,am	"
34	宮内	飯詰	イイヅメ (ad: イツメ)	ab,ad,ae,ai,ak,am	吉野川右岸の自然堤防と氾濫原
35	宮内	堀之内（堀ノ内）	トウノチ	ab,ad,ae,ai,ak,am	
36	宮内	下畠（am: 下田）	シタダ (am: メタダ)	ab,ad,ae,ai,ak,am	吉野川氾濫原及びその際の集落

NO	地区名	字名・地名	読み	出典	備考
37	宮内	本町	モトチ	ab.ad.ee.ai.ak.am	
38	宮内	宮前	ミヤエ (al: ミヤイ)	ab.ad.ee.ai.ak.am	安部馬右助屋敷跡等
39	宮内	新町	シンチ	ab.ad.ee.ai.ak.am	
40	宮内	町尻	チシタリ	ab.ad.ee.ai.ak.am	町外れ
41	宮内	大清水	オシミズ	ab.ad.ee.ai.ak.am	大清水神社有り。湧水地。条里の水口に当たるか。
42	宮内	富貴田	フキタ (ad: フタ)	ab.ad.ee.ai.ak.am	ヲ: 濠田、當時湿地。又は鍛冶地名か。風が強く吹く田という伝承有り。
43	宮内	阿弥陀堂	アミタドウ	ab.ad.ee.ai.ak.am	正徳寺の南。阿弥陀堂があつたか。
44	宮内	柳町	ヤナギマチ	ab.ad.ee.ai.ak.am	正徳寺有り
45	宮内	大壇	オダム	ab.ad.ee.ai.ak.am	近世墓地
46	宮内	鐘小屋	カネコサ	ab.ad.ee.ai.ak.am	金屋子神: 薩鉄の神。「この地にタラがあった。また、ここで熊野大社の鉦鍾を造った」とい伝え有り。
47	宮内	寺西	テラニシ	ab.ad.ee.ai.ak.am	蓬莱院有り
48	宮内	田町	タマチ	ab.ad.ee.ai.ak.am	田に接した町。門前町の西
49	宮内	宮町	ミヤマチ	ab.ad.ee.ai.ak.am	門前町
50	宮内	横町	ヨコチ	ab.ad.ee.ai.ak.am	大鳥居南東
51	宮内	桐町	アラマチ	ab.ad.ee.ai.ak.am	アラチ: 中世の門前町商業地
52	宮内	久保	クボ	ab.ad.ee.ai.ak.am	存んだ地形。水害地名。公方の源有り。
53	宮内	(くぼの在家)	クボノザケ	D	久保在家
54	宮内	菖蒲沢	ショウブザワ (am: ショウブザワリ)	ab.ad.ee.ai.ak.am	ショウブ: 木路。ショウブ・サツコ取水口。元は宮沢、細井平溝がこの地の菖蒲を貢でたことにより改称と云う。
55	宮内	坂町	サカマチ	ab.ad.ee.ai.ak.am	熊野大社有り
56	宮内	花沢	ハナザワ	ab.ad.ee.ai.ak.am	熊野大社の西。サ: 突き出した地形。土砂災害地名。
57	宮内	山王山	サンノヤマ (am: サンノヤマ)	ab.ad.ee.ai.ak.am	山王神社有り。南館
58	宮内	武道作	ブドウサカ (am: ブドウサカ)	ab.ad.ee.ai.ak.am	ブドウサカ: 連峰又は小谷、或は狭間の通路。サ: 扱く行き詰った谷。丘陵間の細長く入り組んだ水田
59	宮内	武道作山	ブドウサカヤマ (am: ブドウサカヤマ)	ad.ee.ai.ak.am	”。前九年の役で源氏方陣を構えたという伝説有
60	宮内	寺山	テラマ	ab.ad.ee.ai.ak.am	蓬莱院跡
61	宮内	疱瘡神堂	ホウカウカミドウ (ad: ホウカウカミドウ、am: ホウカウカミドウ)	ab.ad.ee.ai.ak.am	宮沢城。疱瘡神堂は熊野大社に移転
62	宮内	高日向	タカヒタカ	ab.ad.ee.ai.ak.am	
63	宮内	高日向山	タカヒタカマ	ad.ee.ai.ak.am	
64	宮内	別所	ベラシヨ	ab.ad.ee.ai.ak.am	崩壊地名。又は本村に対し追加開墾を許された土地。熊野大社閑連地名。蝦夷の俘囚を住ませた地とも。
65	宮内	別所山	ベラシヨヤマ	ad.ee.ai.ak.am	経筒出土地。
66	宮内	山ノ神 (山之神)	ヤマノカミ	ab.ad.ee.ai.ak.am	向山の東。山ノ神神社
67	宮内	銅石	ナバシ	ab.ad.ee.ai.ak.am	大きな石(銅石)があった。銅石は運ばれ熊野大社境内の安部右馬助印に使用された。北館。
68	宮内	館ノ上	タケノウエ	ab.ad.ee.ai.ak.am	宮沢城の北半。蔵屋敷郭
69	宮内	白山堂	ハクサンドウ	ab.ad.ee.ai.ak.am	白山神社があつた
70	宮内	梅ヶ沢	メガサワ	ab.ad.ee.ai.ak.am	サ: 土砂崩れ地名。長谷綱音有り
71	宮内	梅ヶ沢山	メガサワヤマ	ad.ee.ai.ak.am	"
72	宮内	外屋	トヤ	ad.ee.ai.ak.am	細長い谷
73	宮内	外屋沢 (ae.ai: 外屋ガ澤) (am: トヤガサワ)	トヤガサワ (ae.ai: トヤガサワ、am: トヤガサワ)	ad.ee.ai.ak.am	

NO	地区名	字名・地名	読み	出典	備考
74	宮内	羽山堂	ヒマドウ	ad ae ai ak am	
75	宮内	羽山堂山	ヒマドウヤマ	ad ae ai ak am	
76	宮内	大沢	オオザカ	ad ae ai ak am	
77	宮内	大沢山	オオザカヤマ	ad ae ai ak am	
78	宮内	仁田	ニタ (ae: ニタ')	ad ae ai am	宮沢川上流
79	宮内	早坂	ハヤザカ	ad ae ai ak am	
80	宮内	矢ノ沢	ヤノザワ	ad ae ai ak am	宮沢川上流
81	宮内	十二堂	ジユーニドウ (ad: ジュ-ニドウ)	ad ae ak am	熊野十二所権現に因係か
82	宮内	十二堂山	ジユーニドウヤマ	ae ai am	〃
83	宮内	愛宕沢	アダツヅサワ (ai: アダツヅサ-ワリ)	ad ae ai ak	
84	宮内	愛宕沢山	アダツヅサワヤマ	ae ai am	
85	宮内	千代峰	センダイコウ (ad: セイダイコウ)	ad ae ai ak am	
86	宮内	向山	ムカシヤマ	ad ae ai ak am	
87	宮内	水林	ミズハヤシ (ai: ミズハヤシ)	ad ae ai ak am	
88	宮内	孫四郎坂	ソゴンショウザカ	ad ae ai ak	人名
89	宮内	孫四郎山	ソゴンショウヤマ	ad ae ai ak am	
90	宮内	孫四郎坂山	ソゴンショウザカヤマ	ai am	
91	宮内	小坂	コザカ	ad ae ai ak am	
92	宮内	小坂山	コザカヤマ	ad ae ai ak am	
93	宮内	八幡	ハチマン	ab	
94	宮内	川原前	カワラマエ	ab am	
95	宮内	大高下	オオタカシタ	ae ai am	
96	宮内	三方矢	サンボウナカ	ae ai	塗山へ飛び地
97	宮内	ひかけ坂	ヒカケザカ	明暦二年御狩場之図	日影坂。元中山日影境の坂か
98	宮内	今熊	イマケマ	明暦二年御狩場之図	向山の東。今熊山跡
99	宮内	ただごひ	タダゴイ	明暦二年御狩場之図	
100	宮内	石澤	イシザワ	明暦二年御狩場之図	
101	宮内	けいかい山(慶海山)	ケイカイサン	明暦二年御狩場之図	双松公園。慶海山館。僧名に由来ともいう。
102	宮内	足軽町	アシガチ	町名	足軽の居住地といふ。

2. 宮内（2）その他の地名等

NO	地区名	地名	読み	出典	備考
1	宮内	寺家	ジケ	宮内町の文化財(1965)P46	宮町の別名を寺家(じけ)と称する
2	宮内	宮外邑(宮戸邑)	ミツムラ	宮内町の文化財(1965)P47	熊野山北方の沢あいを宮沢、現十文字から鳥居の場の裏の熊野山内と、宮沢を含めた神域を宮の内、宮内と呼んだ。一般民衆は神領の外、すなわち宮の外に住んでその集落が宮外村である。
3	宮内	蓮華棒堤	レンガボウツミ	鍋田郷土史 P111	宮内町の東方にあり。その築きし年月明らかならず。今は荒廃して僅かに痕跡を残すのみ

3. 金山 (1) 金山の小字名・地名

N O	地区名	字名・地名	読み	出典	備考
金山		カミヤ	ae,ai		
(神山)		カミヤ	ak2		金山の古名という
1 金山	上野	カワノ	ad,ae,ai,ak,am	平館の南東	
2 金山	屋敷	ヤシキ	ad,ae,ai,ak,am	橋ノ山の南の沢の集落	
3 金山	旭清水	アサヒシミズ	ad,ae,ai,ak,am	旭清水有り	
4 金山	平館 (明暦2: 平立)	ヒラダテ (ae: ヒダテ)	ad,ae,ai,ak,am, 明暦二年 御狩場之図		平館跡
5 金山	(平八在け ak: 平八在家)	ヒラハサケ (ak: ヒ八) サケ (サケ)	C.ak(湯目文書)		平八在家
6 金山	尾島 (明暦2: をし満)	オジマ	ad,ae,ai,ak,am, 明暦二年 御狩場之図		
7 金山	官代林	カンダイハイヤシ	ad,ae,ai,ak,am		
8 金山	天ヶ沢	アマガツ	ad,ae,ai,ak,am	天ヶ沢館の脇	
9 金山	谷地田	ヤチタ	ad,ae,ai,ak,am	湿地。天ヶ沢館の西、平館の北	
10 金山	川中島 (ai: 川中鶴)	カワナカシマ	ad,ae,ai,ak,am		吉野川・汎濫原
11 金山	寺ノ下	テラノト	ad,ae,ai,ak,am		東神院の下
12 金山	中北	ナカキタ	ad,ae,ai,ak,am		東神院の北東。吉野川右岸
13 金山	堂田	ドウテン	ad,ae,ai,ak,am		寺社の免租の田
14 金山	田中	タカ	ad,ae,ai,ak,am		田中館
15 金山	寺清水	テラミズ	ad,ae,ai,ak,am		東神院跡
16 金山	明神前	ミヨウジンマエ	ad,ae,ai,ak,am		龍口明神の南
17 金山	乱橋	ミダレハシ	ad,ae,ai,ak,am		吉野川・左岸汎濫原・旧河道
18 金山	片岡	カタオカ	ad,ae,ai,ak,am		吉野川右岸集落・田・旧河道
19 金山	片岡裏	カタオカウラ	ad,ai,ak,am		片岡の西
20 金山	桜淵	サクララチ	ad,ae,ai,ak,am		吉野川・左岸汎濫原・旧河道。 サラ: 狹い所。狭い縫の意
21 金山	河原	カワラ	ad,ae,ai,ak,am		旧河道
22 金山	明神堂	ミヨウジンドウ	ad,ae,ai,ak,am		龍口明神。立石館。館の脇の口か。
23 金山	立石	タケシ	ad,ae,ai,ak,am		鰐石か。立石館
24 金山	中里	ナカザト	ad,ae,ai,ak,am		集落・田
25 金山	中里裏	ナカザトウラ	ad,ae,ai,ak,am		中里の東の山合い
26 金山	流屋敷	ナガレヤシキ	ad,ae,ai,ak,am		吉野川と旧河道に挟まれた地。要害地名。
27 金山	羽里堂	ハトリドウ	ad,ae,ai,ak,am		羽黒神社
28 金山	白沢	クスギリ	ad,ai,ak,am		
29 金山	和尚壇	オシガタラン	ad,ae,ai,ak,am		近世墓地。一字一石経有り
30 金山	牛石	ウシイシ	ad,ae,ai,ak,am		吉野川とその左岸。八幡山の西の崎
31 金山	薬師堂	ヤクドウ	ad,ae,ai,ak,am		薬師堂
32 金山	大巻之沢	オオマキノツバ	ad,ae,ai,ak,am		薬師堂の北西
33 金山	八森	ハシモリ (am: ハモリ)	ad,ae,ai,ak,am, 明暦二年 御狩場之図		吉野川右岸
34 金山	巻ノ沢	マキノツバ	ad,ae,ai,ak,am		吉野川・旧河道。汎濫原
35 金山	郷志田 (ae,ai: 合志田)	ゴミシタ (ad,ai: ゴカ シタ)	ad,ae,ai,ak,am		タカ: 濡った所。金山公民館
36 金山	穴戸	アナト (ai: アナト)	ad,ae,ai,ak,am		吉野川右岸。田(汎濫域)と集落
37 金山	岩淵	イワブチ	ad,ae,ai,ak,am		吉野川とその左岸の山崩
38 金山	龍ノ口	タツノチ	ad,ae,ai,ak,am		要害地名。土石流。小入沢への入り口
39 金山	小入沢	コイリツバ	ad,ae,ai,ak,am		川穂跡治い。
40 金山	小入沢口	コイリツバチ	ad,ae,ai,ak,am		"
41 金山	内立木 (ad: 内館木)	ウチタケギ	ad,ae,ai,ak,am		内: 入り組んだ地形。城館地名。地蔵岩物見
42 金山	開	ヒラキ	ad,ae,ai,ak,am		小入沢の西。開拓地名

N.O	地区名	字名・地名	読み	出典	備考
43	金山	屏風岩	ヒヨウガサワ	ad,ae,ai,ak,am	小入沢の南。自然岩に由来
44	金山	鬼面石	キメイシ (ai: キメイシ)	ad,ai,ak,am	自然石の鬼面石に由来
45	金山	鬼面岩	キメイシ	ae,ai	鬼面石の誤記か
46	金山	鍛治屋敷	カニヤシキ	ad,ae,ai,ak,am	屏風岩の東。鍛冶を行った所
47	金山	大弓ヶ沢	オコギサワ	ad,ae,ai,ak,am	鍛治屋敷の東
48	金山	小弓ヶ沢	ココギサワ	ad,ae,ai,ak,am	小入沢の南東
49	金山	南沢	ミミザワ	ad,ae,ai,ak,am	小入沢の東
50	金山	仲ノ沢 (ad: 中の沢)	カミサワ	ad,ae,ai,ak,am	南沢の東
51	金山	小簜松	ササマツ	ad,ae,ai,ak,am	仲ノ沢と尾根を挟んで北の沢
52	金山	中谷地	ナカヤチ	ad,ae,ai,ak,am	南沢の北。湿地
53	金山	牛喰沢 (ae: 牛食沢)	ウシタケサワ (ae: ウシタケサワ、ai: ウシケイサワ)	ad,ae,ai,ak,am	タケ: 地崩れ
54	金山	五貫場	ゴカンバ	ad,ae,ai,ak,am	小入沢の川向い (北)。砂金が五貫採れたとも、鎌山客に团子が毎日五貫売れたとも云う
55	金山	水沢	ミズサワ	ad,ae,ai,ak,am	開の北
56	金山	佐藤林	サトウハシ	ad,ae,ai,ak,am	吉野川左岸。人名
57	金山	四ツ谷 (ae: 四ツ屋)	ヨツヤ	ad,ae,ai,ak,am	吉野川右岸。
58	金山	上野屋敷	ウエノヤシキ (ad,ai: ウエノヤシキ)	ad,ae,ai,ak,am	穴戸集落の西 (山側)
59	金山	水上	ミズガミ	ad,ae,ai,ak,am	穴戸の西
60	金山	金沢	カザワ	ad,ae,ai,ak,am	石畠の西。鎌山関連地名
61	金山	西山	ニシヤマ	ad,ae,ai,ak,am	石畠・金沢の西
62	金山	北沢	カザワ	ad,ae,ai,ak,am	石畠の北西
63	金山	石畠	シハタ	ad,ae,ai,ak,am	吉野川右岸。集落。石が多く堆積する所か
64	金山	白山在家	シロヤマササ	D,ad,ae,ai,ak,am	石畠の北。白山在家
65	金山	大久保	タケダ	ad,ae,ai,ak,am	畠在家の北。陥んだ地形。水害地名。
66	金山	畠在家	タケダササ	ad,ae,ai,ak,am	白山在家の北。畠在家
67	金山	黒在家	クレタササ	ad,ae,ai,ak,am	吉野川左岸。石畠・白山在家の川向い。黒在家
68	金山	萱ノ入 (ad: 萱野入)	カキノイ	ad,ae,ai,ak,am	吉野川右岸。県庁石材産出地
69	金山	小原	コハラ (am: カハラ)	ad,ae,ai,ak,am	"
70	金山	メ木	シキ	ad,ae,ai,ak,am	小原の東方の谷地形。シキ: 湿った地・石の多い地
71	金山	石野沢	シノザワ	ad,ae,ai,ak,am	メ木の東。石の多い沢
72	金山	赤坂	アカカミ	ad,ae,ai,ak,am	メ木の北
73	金山	長崖	カツキ	ad,ae,ai,ak,am	塔ノ越の東方
74	金山	小長崖	コカツキ	ad,ae,ai,ak,am	長崖の南
75	金山	原	ハラ	ad,ae,ai,ak,am	畠在家の東～北東。吉野川と左岸の氾濫原。集落
76	金山	鳴山	ナニヤマ	ad,ae,ai,ak,am	原と吉野川を挟んで西北
77	金山	瘤ヶ沢	コモガサワ (ai,am: コモガサワ)	ad,ae,ai,ak,am	石那坂の西
78	金山	石那坂	イナカ	ad,ae,ai,ak,am	吉野川右岸。長く険しい坂か
79	金山	塔ノ越 (ai: 塔之越)	タコシ (ai: タコシ)	ad,ae,ai,ak,am	吉野川とその左岸
80	金山	板宮	タシキ	ad,ae,ai,ak,am	吉野川右岸。板葺きの社があったか
81	金山	桂清水	カツラシミズ	ad,ae,ai,ak,am	板宮の西。桂清水が湧く
82	金山	柳引	カツキ (ae: クセキ)	ad,ae,ai,ak,am	板宮の北～北西。タケ: 小丘の長い連なる高まり
83	金山	砥石沢	ドリサワ (ai: ドリサワ)	ad,ae,ai,ak,am	砥石沢鶯山
84	金山	地蔵岩	ジザウイ	ad,ae,ai,ak,am	地蔵岩物見
85	金山	鬼ヶ崖	カニガタケ	ad,ae,ai,ak,am	四ツ谷の西の山。天狗山館
86	金山	龍鳴山 (ai: 龍鳴山)	リカキサラン (ad,ai: リカキサラン)	ad,ae,ai,ak,am	白山在家・畠在家の西の山。カキ: 火毒地名、土石流。カキ: 前壊地名。

NO	地区名	字名・地名	読み	出典	備考
87	金山	桂山	カツラヤマ	ad,ae,ai,ak,am	カツラ：急斜面（水に関連）、地すべり地形
88	金山	寺裏	テラウラ	ad,ae,ai,ak,am	
89	金山	橋ノ沢	ハシノザワ	ad,ae,ai,ak,am	金座館
90	金山	御岳山 (ae,ai,am: 御嶽)	オミダケヤマ (ad,ai: ミタケヤマ)	ad,ae,ai,ak,am	塔ノ越の東の山。御岳山物見
91	金山	大平	オオヒラ	ad,ae,ai,ak,am	ヒラ：山崩れの起きやすい所
92	金山	七塚古山	ナナツコヤマ	ad,ae,ai,ak,am	コヤ：谷。七つの谷が見られる山の意か
93	金山	八幡山	ヤハタヤマ	ad,ae,ai,ak,am	八幡神社
94	金山	赤塚山	アカツカヤマ	ad,ae,ai,ak,am	アカ：赤土、南の方角。釜渡戸境
95	金山	大高山	オオダカヤマ	ad,ae,ai,ak,am	
96	金山	大高	オオダカ	ae,ai	
97	金山	山平	ヤマヒラ	ae,ai,am	羽黒層の西の山。
98	金山	瘤ヶ峰	コガミミ	ae,ai,am	石那坂の西の山
99	金山	壺長井	ツブナガイ	ae,ai,am	桂山の南西。壺のような地形。金山風穴有り。
100	金山	中里前	ナカシトエ	am	
101	金山	八幡前	ヤハタエ	am	八幡神社入口
102	金山	天沢	アマツラ	am	天ヶ沢か
103	金山	三石田	サンゴケン	am	
104	金山	(すすめ在け ak: 雀在家)	スズメイ	C.ak(湯目文書)	雀在家
105	金山	逢山	ウカヤマ	明暦二年御狩場之図	吉野川の西に位置する
106	金山	(けとう在家)	ケトウイ	ak(湯目文書)	けとう在家

3. 金山 (2) その他の地名等

NO	地区名	地名	読み	出典	備考
1	—	神山道	カミヤマドウ	やすらぎ第3号（金山高砂会 S50年1月15日発行）	昔、金山は「神山道」といつて、小滴を経て山形に通ずる重要な街道筋であった。 市史中巻に、「伊達時代のころ小入沢の奥で金山を見立てから金山と呼んだという。」とある。
2	—	神山郷	カミヤマゴウ	市史中巻P386 市史上巻P707	金山郷は、昔神山郷とよばれていたが、この山から良質の金鉱を探掘したことによってこの村名になった。 「龍口大明神古梁札写」に北条往神山郷とある
3	—	金山川	カミヤマガワ	東置賜郡史下巻P395	吉野川のこと
4	中里	三入山	サンノイリヤマ	地元聞き取り	七塚古山の西側
5	—	棚越坂	タケシカ	大正年間地図	七塚古山の東
6	—	肘曲り峠	ヒジマガリトウケ	大正年間地図	鬼面石より東の道
7	—	樅山	タケヤマ	地元聞き取り	七塚古山南端、平館の東の山。城館跡

南陽市文化財調査報告書
南陽市字限図調査報告書（1）
— 赤湯・宮内・金山 —
2021年3月31日

発行 南陽市教育委員会
〒 999-2292 山形県南陽市三間通 436 番地の 1
電話 0238-40-3211（代）
印刷 有限会社文進堂印刷
〒 999-2221 山形県南陽市櫛塚 811-3
電話 0238-43-2116

